

第4期横浜市障害者プラン中間見直し素案及び市民意見募集の実施について

令和3年度から令和8年度までの6年間の計画期間とする「第4期横浜市障害者プラン」の中間見直し素案をまとめましたので、その内容及び市民意見募集の実施について、御報告します。


1 プランの概要

「第4期横浜市障害者プラン」は、「障害者計画」、「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」の3つの法定計画を一体的に策定した計画です。

このうち、「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」は、令和3年度から令和5年度までの3年間の計画期間としているため、「第4期横浜市障害者プラン」の中間期の見直しを行います。「障害者計画」の内容は継承し、「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」の見直しという位置づけとなります。

- ・ 障害者計画
 障害者基本法に基づき本市における障害者に関する基本的な施策の方向性及びその実現のために必要な個別の事業等を定める計画
- ・ 障害福祉計画
 円滑にサービス提供が進むよう、障害福祉におけるサービスごとに必要な利用の見込み量等を定める計画として、障害者総合支援法に基づく計画
- ・ 障害児福祉計画
 児童福祉法に基づく計画

第4期横浜市障害者プラン					
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
障害者計画					
障害福祉計画			障害福祉計画		
障害児福祉計画			障害児福祉計画		



見直し

2 プランの全体像

「障害のある人もない人も、誰もが人格と個性を尊重し合いながら、地域共生社会の一員として、自らの意思により自分らしく生きることが出来るまちヨコハマを目指す」を基本目標として掲げ、障害児・者の生活を「5つのテーマ」に分類し、施策を進めています。



3 見直し内容

「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」については、関係法令の改正等を踏まえた国の基本指針等の内容により、後期3年間のサービスごとに必要な利用の見込み量等を設定します。

「障害者計画」に係る個別事業についても、ニーズの動向等を踏まえながら必要に応じて内容の見直しを行います。

【参考】障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針

(こども家庭庁・厚生労働省告示第1号・令和5年5月19日)要旨

- (1) 福祉施設の入所者の地域生活への移行
地域移行者数：令和4年度末施設入所者数の6%以上
- (2) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築
精神病床退院後一年以内の地域における平均生活日数：325.3日以上
- (3) 地域生活支援の充実
強度行動障害を有する者への支援ニーズ把握、支援体制の整備
- (4) 福祉施設から一般就労への移行等
就労移行支援事業利用終了者に占める一般就労へ移行した者の割合が5割以上の事業所：50%以上
- (5) 障害児支援の提供体制の計画的な整備等
都道府県は医療的ケア児支援センターを設置
- (6) 相談支援体制の充実・強化等
各市町村は、基幹相談支援センターを設置等
- (7) 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築

4 当事者等からの意見聴取

(1) 関係者団体グループインタビュー

横浜市身体障害者団体連合会、横浜市心身障害児者を守る会連盟、
横浜市障害者地域作業所連絡会、横浜市障害者地域活動ホーム連絡会、
横浜市グループホーム連絡会、横浜市精神障害者家族連合会、
横浜市精神障害者地域生活支援連合会、横浜知的障害関連施設協議会、
Y P S 横浜ピアスタッフ協会、横浜市グループホーム連絡会（当事者部会）、
横浜市放課後等デイサービス自主勉強の会、
社会福祉法人型障害者地域活動ホーム連絡会
<12 団体、約 250 人>

(2) 主な意見

- ・地域の方に、障害のある方の暮らしの様子についての啓発は必要と思われる。
- ・幼年期、小中学校時代の一般児童・生徒への共生の意識の高まりが必要。
- ・誰が、どこが詳しいか、誰に聞いたら教えてもらえるのか？それがわからない。
- ・文字での案内が多いので、知的・発達障害の方々ではわかりにくい場面が多いと感じま
す。
- ・病院（診断）の連携がうまくいっていないと思います。
- ・災害発生時、障害のある人と家族・支援者が安心して過ごせる避難場所が必須。
- ・日中活動の事業所が足りない。2か所に通っているが、人によっては3か所通っている人もいる。
- ・知的障害のある方は特にコロナ禍で余暇が思うように過ごせずストレスが高い方も多いと感じます。

※原文のまま掲載しています。

5 振り返り及び見直し内容

＜別紙「第4期横浜市障害者プラン中間見直し素案 詳細版」より抜粋＞

様々な生活の場面を支えるもの

(1)「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	事業内容	中間期（令和3～5年度）			目標
		目標	振り返り	評価	
障害福祉人材の確保	障害福祉の仕事の魅力を発信し、求人や雇用の支援を行うことで社会福祉人材の確保につなげていきます。	推進	市内専門学校との連携により、障害福祉の魅力を発信するアニメーション等を作成し、イベント等で放映するなど、障害福祉の魅力を発信するための取組を行ってきました。引き続き、これまで作成した動画やポスター等を活用し、就職を考え始める前の高校生や中学生など、若年層に向けた更なる啓発に取り組みます。	△	推進
障害者虐待防止事業（普及・啓発）	市民向けのリーフレット作成等により広報を行います。また、虐待や不適切支援をなくしていくため、障害福祉サービスの事業者等を対象とした研修を実施します。	推進	ちらし・ポスター等を作成し、市民に向けた広報を実施したほか、ホームページでの情報発信を通じて、虐待防止に係る普及・啓発を推進しました。また、障害福祉サービス事業所の管理者及びサービス管理責任者を対象とした「障害者虐待防止研修」を毎年度開催し、各施設における虐待防止及び支援の質の向上に取り組みました。引き続き市民への普及・啓発や、事業者等への各種取組を推進していく必要があります。	○	推進
【新規】精神科病院における虐待防止に向けた措置	精神科病院内で虐待を発見した場合の通報受理体制を整え、通報内容の事実確認等を実施します。	—	—	—	推進
【新規】障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン	障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の理念及び障害当事者の意見を踏まえ、情報保障の考え方や手法等をまとめたガイドラインを活用したコミュニケーション環境の向上及び障害理解の普及啓発に取り組みます。	—	—	—	推進
【新規】医療的ケア児・者等の相談体制の充実	医療的ケア児・者等とその家族が、身近な地域で相談できる場所の充実を図ります。	—	—	—	推進

【評価欄の凡例】 ○：想定した目標を達成し、想定したとおりの効果が得られた。
 △：一定程度の効果は得られた。
 ×：想定した目標は達成できず、効果も得られなかった。

(2)「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
計画相談支援利用者数（年間）	16,322人	18,805人	21,453人	19,860人	22,485人	25,279人
	実績14,235人	実績15,086人	見込17,397人			

生活の場面 1 住む・暮らす

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り

事業名	事業内容	中間期（令和3～5年度）			目標
		目標	振り返り	評価	
多機能型拠点の整備・運営	常に医療的ケアを必要とする重症心身障害児・者等とその家族の地域生活を支援するため、相談支援、短期入所、生活介護、診療、訪問看護や居宅介護などを一体的に提供する多機能型拠点の整備を市内6方面に進めます。	市内4方面整備完了	市内4館目となる北東部方面多機能型拠点（仮称）が令和5年度末に竣工する予定です。 引き続き、市内6館の整備完了に向けて、候補地の検討を進めていきます。	○	市内6方面整備完了
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	精神障害のある方を地域で支えていくため、医療・保健・福祉の連携の下、各区福祉保健センター、生活支援センター及び基幹相談支援センターを核とした「協議の場」において課題解決に向けた取組を検討し、実施していきます。また、地域の社会資源を十分に活用しながら、新たなつながりを構築し、ネットワーク機能を強化します。	推進	各区福祉保健センター、生活支援センター及び基幹相談支援センターを核とした「協議の場」において、取組の推進を目的とした研修会を開催するなど、区域の地域課題解決に向けた検討を実施しました。 また、「市自立支援協議会」の「地域移行・地域定着部会」において、精神障害者がピアスタッフとして支え合える仕組みを検討し、令和5年度から地域生活支援センターの職員等を対象とした「精神障害者ピアスタッフ推進事業」を実施しています。	○	推進
医療的ケア児・者等の支援のための関係機関の協議の場の開催	医療的ケア児・者等への地域における更なる支援の充実に向けて、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るため、横浜市医療的ケア児・者等支援検討委員会において、課題共有、意見交換、対応策等の検討を行います。	推進	「横浜市医療的ケア児・者等支援検討委員会」を毎年度2回開催し、医療的ケア児・者等の現状や課題を把握するとともに、今後の支援体制を検討しました。 引き続き、関係機関による連携強化や、医療的ケア児・者等の地域での受入れ体制の充実・強化に取り組んでいきます。	○	推進
重度障害者等への移動支援事業の拡充	公共交通機関での外出が困難な重度障害者等に対して、移動支援事業の拡充を図ります。	推進	令和3年10月から燃料券制度の新設及び重度障害者福祉タクシー利用券の対象者の拡大を図り、電車やバス等での外出が困難な重度障害者等に対して、移動手段の選択肢を増やしました。	○	推進

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
共同生活援助利用者数（/年）	5,000人	5,200人	5,400人	5,600人	5,800人	6,000人
【新規】うち、重度障害者	—	—	—	1,288人	1,407人	1,538人
【新規】精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数						神奈川県と調整が完了した後、地域の実情等を基に設定します。
【新規】精神病床における1年以上入院患者数						神奈川県と調整が完了した後、地域の実情等を基に設定します。

(1)「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	事業内容	中間期（令和3～5年度）			目標
		目標	振り返り	評価	
難病患者一時入院事業	医療依存度の高い難病患者が介助者の事情により、在宅で介助を受けることが困難になった場合、一時的に入院できるようにします。	推進	新型コロナウイルス感染症の影響により、延利用日数及び延利用人数が減少しましたが、ともに増加傾向にあります。また、受入医療機関を7か所から9か所に増やし、利用者の利便性向上を図りました。 【延利用日数】 令和3年度：362日 令和4年度：460日 令和5年度：504日（見込み） 【延利用人数】 令和3年度：47人 令和4年度：61人 令和5年度：68人（見込み） 【受入医療機関数】 令和3年度：7か所 令和4年度：8か所 令和5年度：9か所	○	推進
医療機関連携事業	障害児・者が身近な地域で適切な医療が受けられる環境づくりを推進するため、障害特性等を理解し適切な医療を提供できる医療機関を増やします。	推進	障害特性等を理解し、適切な医療を提供できる医療機関として、知的障害者専門外来を5病院で運営しています。引き続き市内の医療機関との調整を進め、更なる受入体制の拡大に取り組みます。	○	推進
重症心身障害児・者の在宅生活を支えるための支援体制の充実	重症心身障害児・者の在宅生活を支えるための医療体制をはじめとする検討を行います。支援体制の充実を図ります。	検討	「小児訪問看護・重症心身障害児者看護研修会」を実施することで、重症心身障害児や医療的ケア児・者等への理解が深まり、支援体制の充実につながりました。	○	推進
災害時要援護者支援事業	災害時に自力避難が困難な要援護者の安否確認や避難支援等の活動が円滑に行われるよう、災害時要援護者名簿や避難支援に必要な情報を地域に提供し、日頃からの地域における自主的な支え合いの取組を支援します。	推進	災害時要援護者支援の取組を実施している自治会・町内会の割合は増加しています。また、令和4年度からは、要援護者に対する個別避難計画のモデル事業に着手しています。引き続き、地域における災害時要援護者支援の取組を支援していきます。	○	推進
【新規】要電源障害児者等災害時電源確保支援事業	電源を要する医療機器を在宅で使用する障害児・者等に対し、災害時に生命を維持する上で必要となる非常用電源装置等の確保を支援します。	—	—	—	推進

生活の場面3 育む・学ぶ

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	事業内容	中間期（令和3～5年度）			目標
		目標	振り返り	評価	
地域療育センター運営事業	障害がある、またはその疑いのある児童に、専門性の高い評価や支援計画に基づき、集団療育や保育所、幼稚園及び学校への巡回訪問、保護者支援等を行います。また、区福祉保健センターの療育相談へのスタッフ派遣等を行います。	推進	集団療育や区福祉保健センターの療育相談へのスタッフ派遣等により、障害のある児童や保護者への支援を行いました。保育所、幼稚園及び学校等への巡回訪問等により、障害のある児童の地域社会への参加・インクルージョンの推進を図りました。 聴覚障害児支援について、支援体制の充実を図るため、関係機関の連携を促進することを目的とした協議会設置等の準備を進めていきます。 【保育所等への巡回訪問実施回数】 令和3年度：1,576回 令和4年度：2,092回 令和5年度：1,980回（見込み）	○	推進
医療的ケア体制の充実	小・中・義務教育学校や特別支援学校における医療的ケアの実施体制を充実させます。特別支援学校においては、人工呼吸器等高度な医療的ケアにも対応できるよう、体制の強化を図ります。	整備	小・中学校等では、看護師によるケアを必要とする児童生徒全てに対して、看護師を派遣しました。 また、特別支援学校では、肢体不自由特別支援学校6校に看護師を配置し、医療的ケアを伴う児童生徒が安心・安全に教育を受けられる環境を整備しました。 引き続き、人工呼吸器等の高度な医療的ケアにも対応し、保護者の付き添い解消に取り組みます。	○	整備
【新規】障害児入所施設における入所児童の地域移行	入所児童のうち、18歳に到達する児童について、グループホーム等への入居による地域移行を推進します。	—	—	—	推進

(2) 「障害児福祉計画」に係るサービス見込み量等

指標名	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
児童発達支援（地域療育センター実施分を含む） 事業所数（/年） 受給者数（/月）	190	か所	200	か所	210	か所	250	か所	270	か所	290	か所
	実績209	か所	実績232	か所	見込258	か所						
	3,800	人	4,000	人	4,000	人	4,800	人	5,000	人	5,200	人
	実績4,270	人	実績4,797	人	見込4,800	人						
放課後等デイサービス事業 事業所数（/年） 受給者数（/月）	410	か所	460	か所	510	か所	570	か所	630	か所	700	か所
	実績418	か所	実績470	か所	見込504	か所						
	8,800	人	9,700	人	10,700	人	11,400	人	12,600	人	14,000	人
	実績8,833	人	実績9,886	人	見込10,661	人						

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り

事業名	事業内容	中間期（令和3～5年度）			目標
		目標	振り返り	評価	
就労支援センターを中心とした、地域における就労支援ネットワークの構築	障害者の就労を支える関係機関（特別支援学校、就労移行支援事業所、ハローワーク等）との連携・協力体制を構築します。就労の継続に欠かせない生活面でのサポートを充実させるため、地域の関係機関と連携し、本人への支援を円滑に進めます。	推進	就労支援センター及び就労移行支援事業所と協力し、研修会や連絡会を開催するなど、地域の関係機関による連携体制の構築に取り組みました。 また、教育・労働の各分野においても、障害者就労に関する勉強会等を通じた連携強化に取り組みました。 特に、特別支援学校については、各分野の勉強会に加え、意見交換会を実施するなど、就労支援ネットワークの構築に向けた取り組みを推進しました。	○	推進
雇用施策と福祉施策の連携による重度障害者等への就労支援（重度障害者等就労支援特別事業）	法定サービスの対象外となっている重度障害者の経済活動時間中の支援を雇用施策と福祉施策が連携して行う制度を検討し、実施します。	検討・実施	制度構築に向けた検討を重ね、令和5年度から「横浜市重度障害者等就労支援特別事業」を実施します。	○	実施
身近な地域における障害者スポーツの推進	障害者が身近な地域でスポーツに取り組めるよう、各区のスポーツセンターや中途障害者地域活動センター等と連携し、地域の人材育成を進めながら、障害者スポーツの推進を図ります。	推進	中途障害者地域活動センター、横浜市スポーツ協会等と連携し、障害のある人の身近な地域での障害者スポーツの取組を行いました。また、障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施を通して、支援者・指導者の人材育成を進めました。	○	推進

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

指標名	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
生活介護（/月）	7,732	人分	7,982	人分	8,232	人分	8,482	人分	8,732	人分	8,982	人分
	■実績8,362	人分	■実績8,526	人分	■見込8,615	人分						
【新規】 うち、重度障害者	—		—		—		3,749	人分	3,887	人分	4,025	人分
【新規】 就労移行支援事業利用終了者に占める一般就労へ移行した者の割合が5割以上の事業所	—		—		—		50%		50%		50%	
【新規】 就労選択支援	—		—		—		国が事業の詳細を示した後、地域の実情等を基に設定します。					

6 市民意見募集の実施

(1) 実施期間

令和5年9月26日（火）～10月27日（金）

(2) 周知方法

関係者団体への説明をはじめ、市ウェブサイトでの公表、市役所・区役所でのリーフレット等の配布を行います。

(3) 意見提出方法

電子メール、FAX、郵送により御意見をいただきます。

7 今後のスケジュール（予定）

令和5年 9月 常任委員会（素案及び市民意見募集の実施）

市民説明会

9月～10月 市民意見募集、関係者団体説明

9月～令和6年1月 原案の検討・作成

12月 常任委員会（市民意見募集の結果）

※議会基本条例に基づく議決事件に該当するか御判断いただく予定です。

令和6年 2月 常任委員会（原案）

※議決事件に該当する場合、市会第1回定例会に議案を提出します。

3月 計画策定

だい
第 4 期 きよこはまししょうがいしゃ ちゅうかん みなお そあん
横浜市障害者プラン中間見直し素案しょう さい ばん
詳 細 版

※この冊子には、今回見直されたすべての取組・事業が掲載してあります。
この中には、「現プランに掲載されているが、今回の見直しを経て後期3年間
(令和6年度～8年度)のサービス見込み量等を設定したものと、「国の
基本指針等を踏まえて新たに取組む事業(今まで掲載されていなかった
事業)」の2種類によって構成されています。
現プランの第3章(24頁～123頁)を基に作成しています。

はんれい
【凡例】じぎょうめいらん
<事業名欄>

- ㊦: 将来にわたるあんしん施策
- ㊦: 障害福祉計画として定めるサービス等の「見込み」の量
- ㊦: 障害児福祉計画として定めるサービス等の「見込み」の量
- ㊦: 国の基本指針(令和5年5月19日告示)等を踏まえ新たに実施する事業を指します。

ひょうからん せつめい
<評価欄の説明>

- : 想定した目標を達成し、想定したとおりの効果が得られた。
- △: 一定程度の効果は得られた。
- ×: 想定した目標は達成できず、効果も得られなかった。

もくじ

さまざまな生活の場面を支えるもの

1 普及啓発	1
2 人材確保・育成	4
3 権利擁護	10
4 相談支援	16

生活の場面1 住む・暮らす

1-1 住まい	22
1-2 暮らし	27
1-3 移動支援	39
1-4 まちづくり	44

生活の場面2 安全・安心

2-1 健康・医療	46
2-2 防災・減災	54

生活の場面3 育む・学ぶ

3-1 療育	57
3-2 教育	66

生活の場面4 働く・楽しむ

4-1 就労	73
4-2 日中活動	78
4-3 スポーツ・文化芸術	81

各障害手帳等統計の推移	85
-------------	----



さまざまな せいかつ ばめん ささ
 様々な生活の場面を支えるもの

1 普及啓発

(1) 互いの存在に気づき、身近に感じる仕組みづくり

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
ちいききょう 「地域共 生社会」の じつげん む 実現に向 けた取組 とう すいしん 等の推進	ちいき かた ささ て 地域のあらゆる方が、「支え手」と う て わ 「受け手」に分かれるのではなく、 ちいき く い 地域、暮らし、生きがいをともに つく たか あ 作り、高め合うことができる「地域 きょうせいしゃかい じつげん む 共生社会」の実現に向けた しょうがいしゃゆうかん とりくみ 「障害者週間」などの取組を じっし すいしん 実施・推進していきます。	すいしん 推進 *1	しょうがいしゃゆうかん 障害者週間における しちようしゃ 市庁舎アトリウムでのイ ベント実施などを通じ て、しょうがいりかい ふきゅう 障害理解の普及・ けいはつ とく 啓発に取り組みました。 こんご さまざま きかい たら 今後も様々な機会を捉 え、共生社会の実現に む とりくみ けいぞく 向けた取組を継続して ひつよう いく必要があります。	○	すいしん 推進
かくく ふ 各区の普 及・啓発 かつどう そく 活動の促 しん 進	かくく じゅうみん たい しつべい 各区の住民に対して、疾病や しょうがいとう たい りかい ふか 障害等に対する理解を深めるた めけんしゅう けいはつかつどう しえん おこな めの研修や啓発活動の支援を行 います。	すいしん 推進	かくく しょうがいりかい もくてき 各区で障害理解を目的 としたこうほうぶつ さくせい 広報物の作成や フォーラム等を実施し、 しょうがいりかい ふきゅう けいはつ 障害理解の普及・啓発 をじっし を実施しました。	○	すいしん 推進

*1…「推進」とは、継続して着実に取り組むことを表しています。



(2) 障害に対する理解促進

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			
		目標	振り返り	評価	
当事者や障害福祉関連施設、市民団体等による普及・啓発活動への支援	セイフティーネットプロジェクト横浜*2 (S-net横浜) や 障害福祉関連施設、市民団体等による障害理解のための研修や講演、地域活動を支援・協働するなど、様々な普及・啓発を推進します。	推進	コミュニケーションボードの活用に関する研修会や、地域防災拠点での当事者による講演等を通じた障害理解に向けた普及・啓発活動を支援・協働しました。	○	推進
障害者本人及び家族による普及・啓発活動の推進	社会参加推進センターが中心となり、障害者本人、家族及び各団体と連携・協働し、障害理解の促進に向けた普及・啓発活動を推進します。	推進	社会参加推進センター等と協働し、啓発動画の作成や講座の実施など、普及・啓発の取組を継続的に実施しました。	○	推進
疾病や障害に関する情報の発信	ホームページなどの媒体を活用して、疾病や障害に関する情報や支援に関わる活動を紹介し、市民や当事者・関係者の理解促進に努めます。	推進	毎年度、「障害福祉のあんない」を更新し、情報を発信しました。 令和4年度からは、ホームページや紙媒体に加え、アプリを活用した情報発信を開始しました。 ・冊子作成数 令和3年度:42,000部 令和4年度:38,000部 令和5年度:36,000部 ・アプリダウンロード数 7,501件(令和5年7月現在)	○	推進

*2…セイフティーネットプロジェクト横浜は、横浜市内の15の障害福祉関係団体と機関で組織されています。当事者家族が主体となって、自分たちのできることから活動していくことを大切にし、ながら、地域の人々へ様々な障害についての理解を深めてもらい、障害のある人が地域で安心して暮らしていけるよう、活動しています。



(3) 学齢期への重点的な普及・啓発

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			
		目標	振り返り	評価	
<p>学齢期 児童 及び 保護者 への 障害 理解啓発</p>	<p>学齢期児童と保護者が、 障害児・者と交流したり、障害 について理解を深めたりする 機会の確保に努めます。</p>	<p>すいしん 推進</p>	<p>学齢期児童と保護者が、 障害児・者と交流し、 障害理解を深めるため に福祉教育等を実施し ました。</p>	<p>○</p>	<p>すいしん 推進</p>
<p>副学籍によ る交流教育 及び共同 学習</p>	<p>特別支援学校に在籍する児童 生徒が、居住地の小・中学校の 児童生徒と一緒に学ぶ機会の 拡大を図るなど、共同学習を 進めます。</p>	<p>すいしん 推進</p>	<p>毎年、100名を超える児 童生徒が副学籍交流を 利用し、居住地の小・ 中学校での授業や校外 活動において一緒に学ぶ 機会を設けました。今後 も引き続き、小中学校 と本事業の意義や 重要性を共有し、特別 支援学校に通う児童生徒 と、地域の学校に通う子 どもたちとの交流及び 共同学習をより一層推 進します。</p>	<p>○</p>	<p>すいしん 推進</p>



じんざいかくほ いくせい
2 人材確保・育成

しょうがいふくしじゅうじしゃ かくほ いくせい
(1) 障害福祉従事者の確保と育成

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
しょうがいふくし 障害福祉 じんざい かくほ 人材の確保 ㊦	しょうがいふくし しごと みりよく はっしん 障害福祉の仕事を発信 し、求人や雇用の支援を行う きゅうじん こよう しえん おこな ことで障害福祉人材の確保に しょうがいふくしじんざい かくほ つなげていきます。	すいしん 推進	しな いせんもんがっこう れんけい 市内専門学校との連携に より、障害福祉の魅力を しょうがいふくし みりよく 発信するアニメーション はっしん 等を作成し、イベント等 とう さくせい とう 放映するなど、障害福祉 ほうえい の魅力を発信するための みりよく はっしん とりにくみ おこな 取組を行ってきました。 ひ つづ 引き続き、これまで作成 した動画やポスター等 とうが とう 活用し、就職を考え始 かつよう しゅつしよく かんが はじ める前の高校生や まえ こうこうせい 中学生など、若年層に ちゅうがくせい じゃくねんそう む けいはつ と 向けた更なる啓発に取り く 組みます。	△	すいしん 推進
しょうがいとくせい 障害特性に おう しえん 応じた支援 のための けんしゅう 研修	はったつしょうがい こうどうしょうがい ゆう 発達障害や行動障害を有する かた いりょうてき ケア ひつよう かたとう 方、医療的ケアが必要な方等に たい せんもんでき しえん おこな 対し、専門的な支援を行うこと のできるじんざい いくせい 研修を実施します。	すいしん 推進	はったつしょうがいしや そうだん 発達障害者への相談 えんじょぎじゅつこうじょう 援助技術向上のための けんしゅう こうどうしょうがい かか 研修や、行動障害に係 る支援力向上を図るた めけんしゅうこうじょう ほか めの研修等を実施しま けんしゅうとう じっし した。 また、いりょうてき にかか 医療的ケアに係る しえんしゃようせいけんしゅう およ 「支援者養成研修」及び 「フォローアップ研修」を けんしゅう 実施しました。	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
そうだんしえん 相談支援 従事者の じんざいいくせい 人材育成	しいき くいき じんざいいくせい かん 市域と区域での人材育成に関する とりぐみ せいり そうご れんどう 取組を整理し、相互に連動さ せたこうかてき こうりつてき じんざいいくせい 効果的・効率的な人材育成 たいいり せいび 体系を整備します。	すいしん 推進	れいわ ねんど しょうがいしゃ 令和4年度から障害者 そうだんしえん じゅうじしゃしよにんしゃ 相談支援従事者初任者 けんしゅう 研修において、18区の きかんそうだんしえん とう 基幹相談支援センター等 でのじっしゅう かいし 実習を開始するな ど、しいき くいき 市域と区域との れんどうせい たか しえんりよく 連動性を高め、支援力 こうじょう じんざい 向上につながる人材 いくせい とく 育成に取り組みました。	○	すいしん 推進
しょうがいふくし 障害福祉 しせつしよくいんとう 施設職員等 へのしえん 支援	しょうがいしゅ きゅーおーえる こうじょう め ざ 障害者のQOLの向上を目指 して、しょうがいとくせい 障害特性やライフステー ジに応じた しょうがい じゅうどか 障害の重度化の かんわ せいかつしゅうかんびょう よほうとう 緩和、生活習慣病の予防等の ふきゅうけいはつ はか しょうがいふくし 普及啓発を図るため、障害福祉 しせつ せいせい かんり えいよう 施設における衛生管理、栄養 かんり かん けんしゅう れんらくかいとう 管理に関する研修、連絡会等を じっし 実施します。	すいしん 推進	しょうがいふくししせつ しょうかいん 障害福祉施設の職員を たいしゅう しょくひんえいせい 対象とした食品衛生 こうじゅうかい せつしよくいんげけんしゅう 講習会や摂食嚥下研修 (どうがはいしん じっし 動画配信)を実施しまし た。	○	すいしん 推進
しょうがいふくし 障害福祉 しせつとう はたら 施設等で働 くかんごし 看護師の しえん 支援 ㊦	しょうがいふくししせつとう はたら かんごし 障害福祉施設等で働く看護師 のていちゃく む しえん おこな の定着に向けた支援を行うと ともに、じんざいかくほ ほうさく ともに、人材確保の方策につい てけんとう て検討します。	すいしん 推進	しょうがいふくししせつ はたら かん 障害福祉施設で働く看 護師向けに、しかいし 歯科医師に よるこうくきのうかんり よる口腔機能管理をテー マとしたこうぎどうが はいしん マとした講義動画の配信 たしよくしゅれんけい かん けん や多職種連携に関する研 しゅう かくしせつ ほうもん 修、各施設への訪問によ るぎじゅつてき しどう じっし 技術的な指導を実施し ました。	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
しゅうろうしえん 就労支援セ ンター職員 の人材育成	たよう しゅうろう たいおう 多様な就労ニーズに対応でき るよう、就労支援スキルを向上 させるため、研修の実施など、 人材育成を進めます。	すいしん 推進	れいわ ねんど じんざいかくせい 令和3年度に人材育成シ ートの作成、並びに令和 4年度に個人情報保護 研修、労働法研修、及び 各センター間での支援員 の人事交流を実施し、 職員の支援スキルの 向上を図りました。	○	すいしん 推進
しゅうろうそくしん 就労促進を もくてき 目的とした 事業所職員 む けんしゅう 向け研修	しょうがいしゃ ことば おこな きぎょう 障害者雇用を行っている企業 での「就業体験」の研修を通じ て、事業所職員の就労支援ス キルの向上、就労に向けた 意識付けにつなげます。	すいしん 推進	れいわ ねんど じぎょうしよ 令和3年度に事業所 職員向けに「働く職場の 見学会」を実施し、事業 所職員の意識付けに取 り組みました。 令和4年度には、より 効果的な実施に向けた 関係機関へのヒアリング を行い、令和5年度にヒ アリングを踏まえ、新た な事業を実施しました。	○	すいしん 推進
いりようじゅうじしゃ 医療従事者 けんしゅうじぎょう 研修事業 ㊦	びょうき しょうがい しょうにおよ 病気や障害のある小児及び 重症心身障害児・者の支援に 必要な知識・技術の向上を図 り、障害特性を理解した医療 従事者を育成するための研修 を実施します。	すいしん 推進	いりようきかん ふくししせつどう 医療機関や福祉施設等 に勤務する看護師を対 象に「小児訪問看護・ 重症心身障害児者看護 研修会」を実施しまし た。	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
ガイドヘルパ ー とうけんしゅう 一等研修 じゅこうりょうじよせい 受講料助成 ㊤	ガイドヘルパー等の資格取得 のための研修受講料の一部 を助成し、人材確保を図りま す。	すいしん 推進	【令和3・4年度累計】 総助成人数:229人 総助成額:4,516,000円 内訳:全身性ガイドヘルパ ー26件、知的ガイドヘル パー67件、同行援護 (一般課程)89件、行動 援護53件 【令和5年度(見込み)】 助成人数:120人 総助成額:2,400,000円	○	すいしん 推進
ガイドヘルパ ー スキルアッ プ研修 ㊤	より質の高いサービスが 提供できるよう、移動支援 事業の従業者を対象に 研修を実施します。	すいしん 推進	移動支援事業所の従 業者を対象にガイドヘル パーの基礎知識・技術や 障害特性に応じた支援方 法に関する研修を行い ました。 また、サービス提供責任 者を対象に、サービス 提供責任者等の役割とサ ービス提供の基本視点、 プロセス等に関する研修 を行いました。	○	すいしん 推進
しゃかいさんか 社会参加 すいしん 推進センタ ー による だんたいかつどう 団体活動 しえんきのう 支援機能の じゅうじつ 充実	障害者本人の活動を支える 人材の育成を進めるととも に、同じ障害がある人たちの 交流やコミュニケーションの 機会を拡充し、各団体活動 を促進する取組を推進しま す。	すいしん 推進	障害者の自立や社会参加 等を促進するための日常 生活を送る上での必要な 生活訓練(社会参加訓練や IT講習)など当事者に よる事業を実施しました。	○	すいしん 推進



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
しょうがいふくし サービス等 に係る支給決定業 務研修の参加人数 (福新)	-	-	-	300人 ^{にん}	300人 ^{にん}	300人 ^{にん}
けいかくてき じんざいようせい 計画的な人材養成の 推進(相談支援 従事者研修の 修了者) (福新)	-	-	-	280人 ^{にん}	280人 ^{にん}	280人 ^{にん}
しょうがいしゃじりつしえん 障害者自立支援 審査支払等システム による審査結果の 共有 (福新)	-	-	-	ねん かい 年1回	ねん かい 年1回	ねん かい 年1回



ぎょうむこうりつか む えーあい あいしーていーとう どうにゆう けんとう
(2)業務効率化に向けたロボット・AI・ICT等の導入の検討

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
ぎょうむこうりつか か 業務効率化 む に向けたロ ボット・AI・ あいしーていーとう ICT等の どうにゆう けんとう 導入の検討	はんざつ じ む さぎょう ぎょうむ 煩雑な事務作業などの業務 こうりつか かいごぎょうむ ふたんけいげん 効率化や介護業務の負担軽減 などをすすめるため、ロボット・ えーあい あいしーていー どうにゆう AI・ICTなどの導入の けんとう すす 検討を進めます。	けんとう 検討・ じっし 実施	えーあい あいしーていーとう ロボット・AI・ICT等 かんれんきかん きぎょう の関連機関・企業との いけんこうかん おこな 意見交換を行い、ロボッ とう どうにゆう む ト等の導入に向けた かだいせいり こんご しさく 課題整理や今後の施策 ほうこうせい けんとう の方向性を検討しまし た。また、きき どうにゆう かが 機器導入に係 けんしゅうじょうほう しょうがいかんけい る研修情報を障害関係 だんたい しょうかい 団体に紹介しました。 どうにゆう む じ 導入に向けては、事 ぎょうしゃとう ごいけん うかが 業者等の御意見を伺い すす ながら進めていきます。	○	すいしん 推進



3 権利擁護

(1) 虐待防止の取組の浸透

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			目標
		目標	振り返り	評価	
障害者虐待防止事業(普及・啓発)	市民向けのリーフレット作成等により広報を行います。また、虐待や不適切支援をなくしていくため、障害福祉サービスの事業者等を対象とした研修を実施します。	推進	ちらし・ポスター等を作成し、市民に向けた広報を実施したほか、ホームページでの情報発信を通じて、虐待防止に係る普及・啓発に取り組みました。また、障害福祉サービス事業所の管理者およびサービス管理責任者を対象とした「障害者虐待防止研修」を毎年開催し、各施設における虐待防止および支援の質の向上に取り組みました。 引き続き市民への普及・啓発や、事業者等への各種取組を推進していく必要があります。	○	推進
精神科病院における虐待防止に向けた措置 (新)	精神科病院内で虐待を発見した場合の通報受理体制を整え、通報内容の事実確認等を実施します。	-	-	-	推進



せいねんこうけんせいど りょうそくしん
(2) 成年後見制度の利用促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
よこはまし しみん 横浜市市民 こうけんにんようせい 後見人養成・ かつどうしえん 活動支援 じぎょう 事業	ちいき けんりようご しみん 地域における権利擁護を市民 さんかく すず 参画で進めるため、よこはま せいねんこうけんすいしん 成年後見推進センターが市民 こうけんにん ようせい じっし 後見人の養成を実施し、区 やくしよ くしゃかいふくしきょうぎかい 役所、市・区社会福祉協議会、 せんもんしよくだんたいとう れんけい かつどう 専門職団体等が連携した活動 しえん たいせい こうちく 支援の体制を構築します。	すいしん 推進	れいわ ねんど ねんど 令和3年度から4年度に かけて第5期、第6期市民 だい き だい き しみん 後見人養成講座を実施し こうけんにんようせいこうざ じっし ました。バンク登録者は新 とうろくしゃ あら たに計55名増となりました。 れいわ ねんど 令和5年度 バンク とうろくしゃすう にん 登録者数:101人	○	すいしん 推進
ほうじんこうけん 法人後見 しえんじぎょう 支援事業	せいねんこうけんすいしん よこはま成年後見推進センター が、これまでのほうじんこうけんじゆにん ほうじんこうけんじゆにん 実績を踏まえて、市内の社会 じっせき ふ しな い しゃかい 福祉法人等への法人後見実施 ふくしほうじんとう ほうじんこうけんじっし に向けた支援を行います。 む しえん おこな	すいしん 推進	ていきてき ほうじんこうけんれんらくかい 定期的に法人後見連絡会 かいさい じょうほうきょうゆう を開催し、情報共有や れんけいきょうか おこな 連携強化を行いました。 また、かくほうじんこうけんだんたい 各法人後見団体 しよくいん しよにんしゃむ 職員の初任者向けに けんしゅうどうが はいしん 研修動画を配信しまし た。	○	すいしん 推進
せいねんこうけん 成年後見 せいど ふきゅう 制度の普及 けいはつ 啓発	せいねんこうけんせいど りょう 成年後見制度がより利用しやす いものとなるよう、関係機関と かんけいきかん 調整して当事者及び家族、支援 ちょうせい とうじしやおよ かぞく しえん 団体等への説明会などを実施し だんたいとう せつめいかい じっし ます。	すいしん 推進	かくくいき せいねんこうけん 各区域における成年後見 せいど がくしゅうかいおよ おや 制度の学習会及び親あ るうちの準備を考える じゆんび かんが 連続講座の開催をしまし れんぞくこうざ かいさい た。また、しいきおよ 市域及び かくくいき かいさい 各区域で開催されるサポ ートネットにおいて、 しえんしゃかん れんけい きょうか 支援者間の連携を強化し ました。	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かけり 振り返り	ひょうか 評価	
けんりようご 権利擁護 じぎょう 事業	けんり まも そうだん 権利を守るための相談や けいやく もと きんせんかんり 契約に基づく金銭管理サー ビスなどの日常生活の支援 を、区あんしんセンターが、 けいやく もと じっし 契約に基づいて実施します。	すいしん 推進	しみん しえんしゃ せいど しゅうち 市民や支援者への制度の周知 および啓発により、相談件数は年々 ぞうか 増加しています。 【相談件数】 れいわ ねんど けん 令和3年度:92,096件 れいわ ねんど けん 令和4年度:96,643件 れいわ ねんど けん みこ 令和5年度:97,000件(見込み) のべけいやくしゃすう 【延契約者数】 れいわ ねんど にん 令和3年度:1,362人 れいわ ねんど にん 令和4年度:1,383人 れいわ ねんど にん みこ 令和5年度:1,414人(見込み)	○	すいしん 推進

しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
せいねんこうけんせいどくちょう 成年後見制度区長 もうした けんすう 申立て件数 (福)	30けん 実績29けん	30けん 実績18けん	30けん 30けん (実績見込み)	30けん	30けん	30けん
せいねんこうけんにんとうほうしゅう 成年後見人等報酬 じょせいけんすう 助成件数 (福)	210けん 実績237けん	240けん 実績284けん	270けん 285けん (実績見込み)	300けん	330けん	360けん



しょうがいしゃ さべつ かいしょうほう もと とりくみ
(3) 障害者差別解消法に基づく取組

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき(令和3~5年度) 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
しみんとう 市民等への ふきゅう けいはつ 普及・啓発	しょうがい りゆう さべつ 障害を理由とする差別の かいしょう あ しみんとう 解消に当たっては、市民等 かたがた かんしん りかい ふか の方々に関心と理解を深め ていただくことが何よりも たいせつ 大切であることから、しみんとう 市民等 む こうほうおよ けいはつかつどう に向けた広報及び啓発活動 こうかてき じっし を効果的に実施します。	すいしん 推進	さべつ かいしょう けいはつ かつどう 差別解消のための啓発動画を しえい ちかてつ しゃない えき 市営バス・地下鉄車内や駅の デジタルサイネージ、本市ウエ ブサイトに掲出し、障害者 さべつ かん けいはつ かつどう じっし 差別に関する啓発活動を実施 しました。 れいわ ねんど じんかん じ 令和6年度からは、民間事 ぎょうしゃ しょうがいしゃ たい こう 業者による障害者に対する合 りてき はいりよ ていきょう ぎむ か 理的配慮の提供が義務化さ れるため、事業者への周知に さら とく ひつよう 更に取り組んでいく必要があ ります。	○	すいしん 推進
そうだん たいせい とう 相談体制等 の周知	しょうがいしゃ さべつ かん そうだん 障害者差別に関する相談、 ぶんそう ぼうしどう たいせい 紛争の防止等のための体制 しゅうち を周知します。また、相談及 び紛争の防止等を地域にお いて すすん 推進するための ちいききょう 地域協 ぎかい かいさい 議会を開催します。	すいしん 推進	とうじしゃ さべつ そうだん 当事者による差別の相談や ちょうせい いんかい とう しょうかい しゅうち 調整委員会等の紹介、周知・ けいはつ とう にな しょうがいしゃ しゃかい さんか 啓発等を担う障害者社会参加 すすん センターにおいて、 しょうがいしゃ さべつ かん そうだん たいせい 障害者差別に関する相談体制 しゅうち を周知しました。 また、よこはまし しょうがいしゃ さべつ かいしょう 横浜市障害者差別解消 しえん ちいききょう ぎかい かいさい 支援地域協議会 を開催し、 そうだん じあん とう きょうゆう しょうがいしゃ 相談事案等を共有し、障害者 さべつ そうだん たいおう かん けん とう 差別の相談対応に関する検討 おこな を行いました。	○	すいしん 推進
し しょくいん たいおう 市職員対応 要領の周知	ほんし しょくいん てきせつ たいおう おこな 本市職員が適切な対応を行 って いく ための 指針 として さくてい し しょくいん たいおう ようりょう 策定した市職員対応要領を しゅうち さべつ てきと ありつか 周知し、差別的取扱いとなり う じれい ごうりてき はいりよ 得る事例や、合理的な配慮の こうじれい とう しん とう はか 好事例等の浸透を図ります。	すいしん 推進	ぜんし しょくいん たいしょう いー 全職員を対象としたeラーニ ングによる研修を実施しまし た。	○	すいしん 推進



じょうほうほしやう とりくみ
(4) 情報保障の取組

じぎやうめい 事業名	じぎやうないやう 事業内容	ちゆうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひやう 目標
		もくひやう 目標	ふ かえ 振り返り	ひやうか 評価	
じょうほうはっしん じ 情報発信時 の合理的 はいりよ ていきやう 配慮の提供	ぎやうせいじょうほうはっしん じ しかく 行政情報発信時の視覚 しょうがいしゃ ちやうかくしょうがいしゃおよ ちてき 障害者、聴覚障害者及び知的 しょうがいしゃどう たい ひと 障害者等に対して、一人ひとり しょうがいとくせい おう ごうりてき の障害特性に応じた合理的 はいりよ おこな 配慮を行います。	すいしん 推進	てんじとう あわ あら 点字等と併せ、新たに おんせいにんしききのう りやう 音声認識機能を利用した あいしーていーき き じょうほう ICT機器による情報 ほしやう と く 保障に取り組みました。 また、しょうがいしゃさ べつ かいしやう 障害者差別解消 ちやうないすいしんかいぎとう つう 庁内推進会議等を通じ て、じょうほうほしやう ひつやうせい 情報保障の必要性を ぜんしよくいん きやうゆう 全職員に共有しました。	○	すいしん 推進
だいひつ だいどく 代筆・代読サ ービス	しかくとう しょうがい ひと にちじやう 視覚等に障害のある人が日常 せいかつ なか だいひつ だいどく 生活の中で代筆または代読が ひつやう しえんしや 必要なときに支援者によるサー ビス提供を行います。	けんとう 検討・ じつし 実施	きよたくない だいどく だいひつ 居宅内での代読・代筆 しえん れいわ ねん 支援について、令和3年 10月から家事援助にお いて代筆・代読のみでの サービス提供を可能と しました。	○	すいしん 推進
しょうがい 障害のある ひと たい 人に対する じょうほうほしやう 情報保障の ためのガイ ドライン ⑧	しょうがいしゃじょうほう 障害者情報アクセシビリティ・ コミュニケーション施策推進法 りねんおよ しょうがいたうじしゃ いけん の理念及び障害当事者の意見 ふ じょうほうほしやう かんが かの を踏まえ、情報保障の考え方や しゆほうとう 手法等をまとめたガイドライン かつやう を活用したコミュニケーション かんきやう こうじやうおよ しょうがいらい かい 環境の向上及び障害理解の ふきやうけいはつ と く 普及啓発に取り組みます。	-	-	-	すいしん 推進

3 権利擁護

さまざまな せいかつ ばめん ささ
 様々な生活の場面を支えるもの



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
しゅわつうやくしゃ はけん 手話通訳者の派遣 (派遣人数) 福	11,000人 ^{にん}	11,000人 ^{にん}	11,000人 ^{にん}	11,000 人 ^{にん}	11,000 人 ^{にん}	11,000 人 ^{にん}
	じっせき 実績 9,630人 ^{にん}	じっせき 実績 10,376人 ^{にん}	11,000人 ^{にん} (実績見込み)			
ようやくひつきしゃ はけん 要約筆記者の派遣 (派遣人数) 福	1,900人 ^{にん}	1,900人 ^{にん}	1,900人 ^{にん}	1,900人 ^{にん}	1,900人 ^{にん}	1,900人 ^{にん}
	じっせき 実績 934人 ^{にん}	じっせき 実績 1,024人 ^{にん}	1,900人 ^{にん} (実績見込み)			
しゅわ ほうしん ようせい 手話 奉仕員 養成 研修事業 (養成人数) 福	172人 ^{にん}	172人 ^{にん}	172人 ^{にん}	172人 ^{にん}	172人 ^{にん}	172人 ^{にん}
	じっせき 実績 102人 ^{にん}	じっせき 実績 138人 ^{にん}	172人 ^{にん} (実績見込み)			
しゅわつうやくしゃ ひつきしゃ 手話通訳者・筆記者 養成研修事業 (養成人数) 福	90人 ^{にん}	90人 ^{にん}	90人 ^{にん}	90人 ^{にん}	90人 ^{にん}	90人 ^{にん}
	じっせき 実績 46人 ^{にん}	じっせき 実績 60人 ^{にん}	90人 ^{にん} (実績見込み)			
もう しゃむ つうやく 盲ろう者向け通訳・ 介助員養成研修 事業(養成人数) 福	30人 ^{にん}	30人 ^{にん}	30人 ^{にん}	37人 ^{にん}	37人 ^{にん}	37人 ^{にん}
	じっせき 実績 17人 ^{にん}	じっせき 実績 20人 ^{にん}	30人 ^{にん} (実績見込み)			

4 相談支援

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			目標
		目標	振り返り	評価	
障害者相談支援事業の周知及び普及啓発	区福祉保健センター、基幹相談支援センター、精神障害者生活支援センターの3機関を中心に地域生活支援拠点の機能を充足させながら、相談支援事業の周知、啓発を図ります。	推進	相談支援事業の周知、啓発を図るため、「相談支援事業所開設説明会」「事業別集団指導」「障がい福祉入門研修会」等を実施しました。 また、3機関が連携し、計画相談支援の推進に向けた後方支援を行うなど、地域の相談支援体制の強化に取り組みました。	○	推進
相談支援従事者の人材育成【再掲】	市域と区域での人材育成に関する取組を整理し、相互に運動させた効果的・効率的な人材育成体系を整備します。	推進	令和4年度から障害者相談支援従事者初任者研修において、18区の基幹相談支援センター等での実習を開始するなど、市域と区域との運動性を高め、支援力向上につながる人材育成に取り組みました。	○	推進
市自立支援協議会と区自立支援協議会の連携・運動	市自立支援協議会、ブロック連絡会、区自立支援協議会を連携・運動させ、地域づくりに効果的に取り組める体制を整備します。	推進	SNSを活用した情報の共有や、市協議会が作成した研修動画を各区協議会に配信するなど、市及び区協議会の連携・運動を高める取組を推進しました。	○	推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
とうじしゃ 当事者によ る相談の じゅうじつ 充実	しゃかいさんかすいしん 社会参加推進センターに設置す るピア相談センターでの当事者 相談の周知を図り、当事者によ る相談支援を推進します。	すいしん 推進	ウェブサイトへの掲載等 により、ピア相談センタ ーでの取組を周知し、 当事者相談の活用につ なげました。また、ピア 相談員のスキルアップを 図るため、ピア相談員 研修を実施しました。	○	すいしん 推進
きそん そろだん 既存の相談 まどぐち ちいき 窓口(地域ケ アプラザ等) による連携	みちか そろだんしゃ ひごろ かか 身近な相談者として、日頃の関 わりの中で、何気ない会話に含 まれている相談に気づき、必要 に応じて適した相談支援機関に つなげます。	すいしん 推進	ちいき 地域ケアプラザ等におけ る相談対応をきっかけと した事案を、必要に 応じて相談支援機関につ なげました。	○	すいしん 推進
なんびょうかんじゃとう 難病患者等 への必要な じょうほうていきょう 情報提供	なんびょうかんじゃとう たい ひつよう 難病患者等に対して必要な じょうほうていきょう おこな 情報提供を行うこと等によ り、難病患者等の障害福祉サ ービス等の活用が促されるよ う検討します。	すいしん 推進	こうえんかい こうりゅうかい 講演会・交流会のオンラ イン開催を導入すること により参加しやすい環境 を構築し、情報提供を 行いました。	○	すいしん 推進
はったつしょうがいしゃ 発達障害者 支援センタ 一運営事業	はったつしょうがいしゃしえん 発達障害者支援センターと、 ちいき しえんきかん 地域の支援機関との連携の しく せいり そろだんしえんたいせい 仕組みを整理し、相談支援体制 の強化を図ります。	すいしん 推進	はったつしょうがいしゃしえん 発達障害者支援センター の職員が各區に出向き、 地域の相談支援機関と の連携の取組を18區で 実施しました。 また、相談支援機関の 援助力向上のための 研修を実施しました。	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
こうじのうきのう 高次脳機能 しょうがい かか 障害に関わ る関係機関 の連携促進	こうじのうきのうしょうがいしえん 高次脳機能障害支援センター ちいき かんけいきかん れんけい と地域の関係機関との連携を そくしん みちか ちいき 促進し、身近な地域における こうじのうきのうしょうがい たい しえん 高次脳機能障害に対する支援 たいせい きょうか 体制を強化します。	すいしん 推進	ちゅうとしょうがいしゃちいきかつどう 中途障害者地域活動セ ンターでの専門相談や支 えんしゃ む べんきょうかい じっし 援者向け勉強会の実施 くわ こうじのうきのう に加え、高次脳機能 しょうがいしゃ おお りよう 障害者が多く利用する ちいきさぎょうしょ れんらくかい 地域作業所との連絡会 あらた かいさい しな を新たに開催し、市内の こうじのうきのうしょうがいしえん 高次脳機能障害者支援 における連携を 強化し ました。	○	すいしん 推進
いりょうてき 医療的ケア じ しゃとう 児・者等の相 談体制の じゅうじつ 充実(新)	いりょうてき じ しゃとう かぞく 医療的ケア児・者等とその家族 が、みちか ちいき しょうだん 身近な地域で相談できる ばしょ じゅうじつ はか 場所の充実を図ります。	-	-	-	すいしん 推進
ヤングケアラ ーの支援に むけた取組 (新)	ほんらいおとな にな そうてい 本来大人が担うと想定されてい る家事や、幼いきょうだいや こうれい そふ ぼ しょうがい 高齢の祖父母、障害のある家族 の世話などを日常的に行って いる子ども、いわゆる「ヤングケ アラー」について、ちいきぜんたい こ 地域全体で子 どもたちを見守り、ささ かんきょう 支える環境 づくりを進めます。	-	-	-	すいしん 推進

4 相談支援

さまざまな せいかつ ばめん ささ
様々な生活の場面を支えるもの



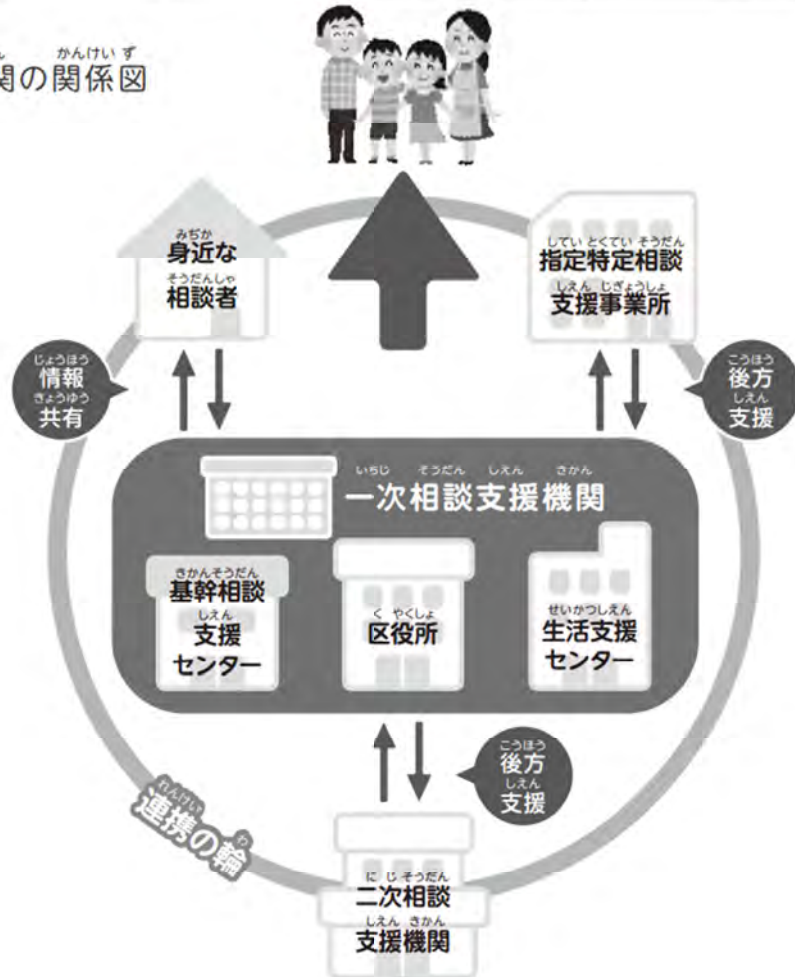
読プラン参考 44~52頁

しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
ちいき そろだんしえんたいせい 地域の相談支援体制 の強化 せんもんてき しどう じよげん 専門的な指導・助言 福	400 <small>けん</small> 件	440 <small>けん</small> 件	480 <small>けん</small> 件	840 <small>けん</small> 件	840 <small>けん</small> 件	840 <small>けん</small> 件
	じっせき 実績 401 <small>けん</small> 件	じっせき 実績 1,483 <small>けん</small> 件	840 <small>けん</small> 件 (実績見込み)			
ちいき そろだんしえんじぎょう 地域の相談支援事業 しや じんざいいくせい じっし 者の人材育成の実施 福	72 <small>かい</small> 回	72 <small>かい</small> 回	72 <small>かい</small> 回	72 <small>かい</small> 回	72 <small>かい</small> 回	72 <small>かい</small> 回
	じっせき 実績 73 <small>かい</small> 回	じっせき 実績 75 <small>かい</small> 回	72 <small>かい</small> 回 (実績見込み)			
ちいき そろだんきかん 地域の相談機関との れんけいきょうか とりくみ 連携強化の取組 福	36 <small>かい</small> 回	36 <small>かい</small> 回	36 <small>かい</small> 回	130 <small>かい</small> 回	130 <small>かい</small> 回	130 <small>かい</small> 回
	じっせき 実績 103 <small>かい</small> 回	じっせき 実績 158 <small>かい</small> 回	130 <small>かい</small> 回 (実績見込み)			
しょうがい しゆべつ かくしゆ 障害の種別や各種 のニーズに対応でき る総合的・専門的な 相談支援 福	48,000 <small>けん</small> 件	49,000 <small>けん</small> 件	50,000 <small>けん</small> 件	55,000 <small>けん</small> 件	55,000 <small>けん</small> 件	55,000 <small>けん</small> 件
	じっせき 実績 59,109 <small>けん</small> 件	じっせき 実績 55,022 <small>けん</small> 件	50,000 <small>けん</small> 件 (実績見込み)			
けいかくそろだんしえんりようしや 計画相談支援利用者 すう ねんかん 数(年間) 福	16,322 <small>にん</small> 人	18,805 <small>にん</small> 人	21,453 <small>にん</small> 人	19,860 <small>にん</small> 人	22,485 <small>にん</small> 人	25,279 <small>にん</small> 人
	じっせき 実績 14,235 <small>にん</small> 人	じっせき 実績 15,086 <small>にん</small> 人	17,397 <small>にん</small> 人 (実績見込み)			
はったつ しょうがい しゃ しえん 発達障害者支援 ちいききょうぎかい 地域協議会の かいさいけんすう 開催件数 福	3 <small>けん</small> 件	3 <small>けん</small> 件	3 <small>けん</small> 件	3 <small>けん</small> 件	3 <small>けん</small> 件	3 <small>けん</small> 件
	じっせき 実績 1 <small>けん</small> 件	じっせき 実績 2 <small>けん</small> 件	2 <small>けん</small> 件 (実績見込み)			
はったつしょうがいしやしえん 発達障害者支援セン ターによる相談件数 がくれいこうきしょうがいじ (学齢後期障害児 支援事業分を除く) 福	3,500 <small>けん</small> 件	3,500 <small>けん</small> 件	3,500 <small>けん</small> 件	3,500 <small>けん</small> 件	3,500 <small>けん</small> 件	3,500 <small>けん</small> 件
	じっせき 実績 1,528 <small>けん</small> 件	じっせき 実績 1,688 <small>けん</small> 件	3,500 <small>けん</small> 件 (実績見込み)			



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
はったつしょうがいしやしえん 発達障害者支援セン ター及び発達 しょうがいしやちいきしえん 障害者地域支援マネ ジャーの外部 きかん ちいきじゅうみん 機関や地域住民へ の研修、啓発(学齢 こうきしょうがいじしえん 後期障害児支援 じぎょうぶんのぞ 事業分を除く) ㊦	55 <small>けん</small> 件	55 <small>けん</small> 件	55 <small>けん</small> 件	55 <small>けん</small> 件	55 <small>けん</small> 件	55 <small>けん</small> 件
いりょうてき し しやとう 医療的ケア児・者等 たい かんれんばんや に対する関連分野の しえん ちょうせい 支援を調整するコー ディネーター の配置 ㊦	6 <small>にん</small> 人	6 <small>にん</small> 人	6 <small>にん</small> 人	10 <small>にん</small> 人	12 <small>にん</small> 人	12 <small>にん</small> 人

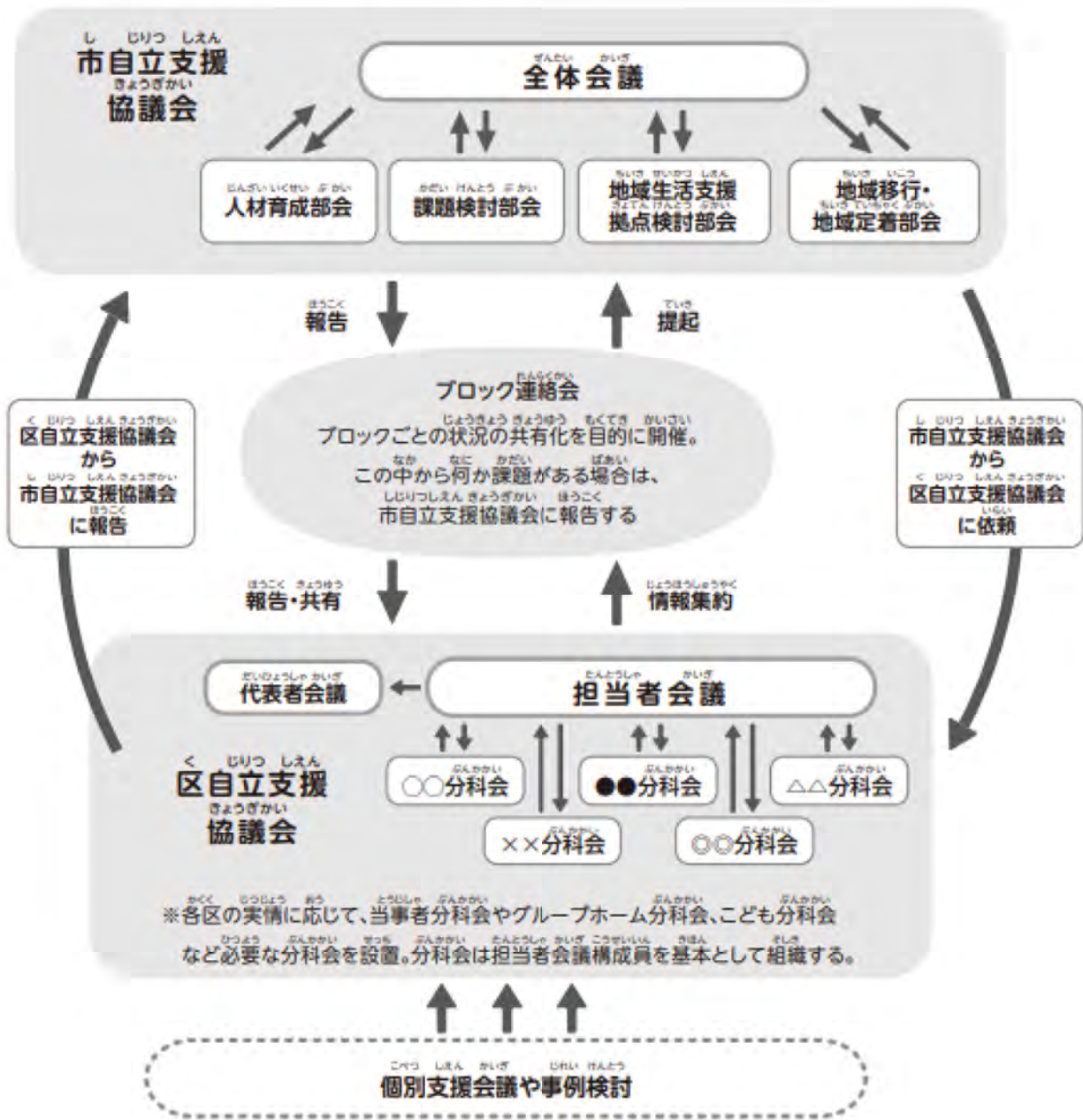
● 相談支援機関の関係図





● 自立支援協議会 体制イメージ図

市自立支援協議会と区自立支援協議会関連図



区自立支援協議会の取組

相談部会(分科会)の設置による推進

本市では、計画相談支援の充実に向けて、平成28年度から全ての区自立支援協議会に相談支援部会(分科会)を設置しました。指定特定相談支援事業所を中心に、研修会や事例検討会等を実施し、相談員同士の横のつながりの構築や相談支援の質の向上等に取り組んでいます。



生活の場面1 住む・暮らす

1-1 住まい

(1) 障害状況に合わせた住まいの選択肢の充実

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			目標
		目標	振り返り	評価	
民間住宅 入居の促進	障害者が民間賃貸住宅への入居をしやすくする仕組みとして「住宅セーフティネット制度」を活用していきます。 また、障害者等の住宅確保要配慮者の居住支援を充実させるため、横浜市居住支援協議会と不動産事業者や福祉支援団体、区局の連携を強化する制度の検討を進めます。	推進	よこはましきよじゆうしえんきょうぎかい 横浜市居住支援協議会 に参画し、不動産事業者 との情報共有を行いました。 また、令和4年度以降、 障害理解と福祉関係者 との連携を進めるための 勉強会を実施しています。	○	推進
サポートホーム事業 ㊦	発達障害のある入居者に対し、地域生活に向けた準備のため、生活面のアセスメントと支援を実施する「サポートホーム」の効果を検証するとともに、支援方法を地域の事業所等へ拡大させていきます。	推進	これまでの検証と支援 方法を、市域の事業所等 に拡大させる取組の一環 として、事業所向けの 研修を実施しました。 引き続き、これまでに培 った支援手法が地域の 事業所等に拡大されるよ う、取組を推進してい きます。	○	推進
障害児施設の再整備 ㊦	老朽化が進んでいる障害児入所施設の再整備を進めます。	検討	運営法人との調整を行 いました。	○	検討



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かせ 振り返り	ひょうか 評価	
しょうふうがくえんさい 松風学園再 せいびじぎょう 整備事業	<p>にゆうきよしや きよじゆうかんききょうかいぜん 入居者の居住環境改善のため、個室化等を進めます。また、 こしつかとう すす どうえんしきち いちぶ かつよう みるせつ 同園敷地の一部を活用して民設 しんにゆうしよしせつ せいび 新入所施設を整備します。</p> <p>ちゅうかんき こしつかとう きよじゆうかんききょう ・中間期：個室化等の居住環境 や設備の改善及び民設 せつび かいぜんおよ みるせつ 新入所施設の工事実施 しんにゆうしよしせつ こうじじっし 新入所施設の工事実施完了</p> <p>けいかくき かんちゆう こしつかとう きよじゆう ・計画期間中：個室化等の居住 かんききょう せつび かいぜんおよ みるせつ 環境や設備の改善及び民設 しんにゆうしよしせつ こうじじっしかんりよう 新入所施設の工事実施完了</p>	こうじ 工事 じっし 実施	<p>しんきよじゆうどうしんせつこうじおよ 新居住棟新設工事及び びとうかいたいこうじ かんりよう B棟解体工事を完了し ました。令和5年度から、 れいわ ねんど にっちゅうかつどうとうしんせつ ちやくしゅ 日中活動棟新設に着手 しています。</p>	○	こうじ 工事 じっし 実施 かんりよう 完了
しょうがいふくし 障害福祉 しせつとう はたら 施設等で働 かんごし く看護師の しえん 支援 さいけい 【再掲】 ㊦	<p>しょうがいふくししせつとう はたら かんごし 障害福祉施設等で働く看護師 の定着に向けた支援を行うと ともに、じんざいかくほ ほうさく ともに、人材確保の方策につい て検討します。</p>	すいしん 推進	<p>しょうがいふくししせつ はたら かん 障害福祉施設で働く看 護師向けに、しかいし 歯科医師に よるこうくきのうかんり による口腔機能管理をテー マとした講義動画の配信 こうぎどうが はいしん や多職種連携に関する研 たしよくしゅれんけい かん けん 修、各施設への訪問によ りしゅう かくしせつ ほうもん る技術的な指導を実施し ぎじゆつてき しどう じっし ました。</p>	○	すいしん 推進



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
きょうどうせいかつえんじょ 共同生活援助(グル ープホーム) りようしゃすう しんせつてい 利用者数(新設定 いんすう ねん 員数/年) ㊦	200人	200人	200人			
	じっせき 実績 221人	じっせき 実績 263人	264人 (実績見込み)	200人	200人	200人
きょうどうせいかつえんじょ 共同生活援助(グル ープホーム) りようしゃすう りようにんすう 利用者数(利用人数/ ねん 年) ㊦	5,000人	5,200人	5,400人			
	じっせき 実績 5,164人	じっせき 実績 5,452人	5,785人 (実績見込み)	5,600 人	5,800 人	6,000 人
うち、重度障害者 *3 ㊦	-	-	-	1,288 人	1,407 人	1,538 人
しせつにゆうしょしえん 施設入所支援 りようにんすう つき (利用人数/月) ㊦	1,426人	1,420人	1,414人			
	じっせき 実績 1,385人	じっせき 実績 1,364人	1,363人 (実績見込み)	1,330 人	1,313 人	1,295 人
ふくしがたしょうがいじにゆうしょ 福祉型障害児入所 しえん 支援 りようじどうすう つき (利用児童数/月) ㊦	190人	190人	190人			
	じっせき 実績 160人	じっせき 実績 158人	160人 (実績見込み)	190人	190人	190人
いりょうがたしょうがいじにゆうしょ 医療型障害児入所 しえん 支援 りようじどうすう つき (利用児童数/月) ㊦	90人	90人	90人			
	じっせき 実績 77人	じっせき 実績 83人	85人 (実績見込み)	98人	98人	98人
しょうがいじにゆうしょしせつ 障害児入所施設に おける18歳以上の にゆうしょしやすう 入所者数 ㊦	0人	0人	0人			
	じっせき 実績 13人	じっせき 実績 7人	0人 (実績見込み)	0人	0人	0人



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
しゆくはくがたじりつくんれん 宿泊型自立訓練 りょうにんずう つき (利用人数/月) 福	にんぶん 87人分	にんぶん 87人分	にんぶん 87人分	にんぶん 87人分	にんぶん 87人分	にんぶん 87人分
	じっせき 実績 にんぶん 65人分	じっせき 実績 にんぶん 62人分	にんにち 69人日 (実績見込み)			
	2,364 にんにち 人日	2,364 にんにち 人日	2,364 にんにち 人日	2,364 にんにち 人日	2,364 にんにち 人日	2,364 にんにち 人日
	じっせき 実績 1,709 にんにち 人日	じっせき 実績 1,647 にんにち 人日	1,880 にんにち 人日 (実績見込み)			
りょうようかいご りょうにんずう 療養介護(利用人数 /月) 福	にん 279人	にん 279人	にん 284人	にん 308人	にん 308人	にん 308人
	じっせき 実績 にん 283人	じっせき 実績 にん 308人	にん 307人 (実績見込み)			

*3…「^{じゅうどしょうがいしゃ}重度障害者」とは、^{きょうどうこうどうしょうがい}強度行動障害や^{こうじのうきのうしょうがい}高次脳機能障害を有する^{ゆう}障害者、^{しょうがいしゃ}医療的ケアを必要とする^{いりようでき}者等^{ひつよう}を表しています。

(2) 高齢化・重度化を踏まえた住まいの構築

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			目標
		目標	振り返り	評価	
身体障害者・高齢者の住宅改造及び模様替え	市営住宅に入居している障害者等の要望に対し、トイレや浴室への手すりの取付けなどの住宅改造を実施します。	推進	令和3~4年度実績:住宅改造36件(障害者対応16件、高齢者対応20件)、模様替承認164件 令和5年度実績(見込み):住宅改造20件(障害者対応10件・高齢者対応10件)、模様替承認80件	○	推進
高齢化・重度化対応のグループホームの検討・拡充	現在、実施している高齢化・重度化対応グループホーム事業を踏まえ、持続的に実現可能な制度の検討を行います。今後も進んでいくことが見込まれる障害者の高齢化・重度化に対応していくため、高齢化・重度化対応グループホームを拡充していきます。	推進	関係団体等とのヒアリングを重ね、グループホーム設備の充実策と当事者の状態に応じた対策の両面を検討しました。 また、支給決定状況のデータを分析し、障害特性によって高齢化・重度化の心身状況に違いがあることを明らかにしました。引き続き持続可能な仕組みとするため、事業者や関係団体と協議のうえ、必要な施策を検討していきます。	○	推進
高齢化・重度化対応バリアフリー改修事業	グループホームを利用する障害者が高齢になり、それに伴う身体機能の低下等により、従来のホームの設備で生活することが困難となる場合でも、居住しているホームで安心して生活し続けることができるよう、バリアフリー等改修に係る経費を補助します。	実施	令和3年度、4年度で3ホームから申請があり、浴室の改修、手摺やスロープの設置を行いました。申請数としては予定を下回ったため、更なる制度の利用周知を進める必要があります。また、事業者が当該事業を利用しやすくなるよう、周知方法を工夫します。	△	実施



1-2 暮らし

(1) 地域での生活を支える仕組みの充実

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)		
		目標	振り返り	評価
障害者地域 活動ホーム 事業	在宅の障害児・者とその家族の 地域生活を支援する拠点施設と して、横浜市が独自に設置して いるものです。主なサービスと して、生活介護や地域活動支援 センター事業デイサービス型等 の日中活動のほか、ショートス テイや一時ケア等の生活支援 事業を実施しています。施設 規模等により、社会福祉 法人型地活ホームと機能 強化型地活ホームの2種類に 分類されています。	推進	活動ホーム連絡会等の場 において、現場の課題を 共有し、役割や位置付け の明確化及び、機能の 充実化に向けて、施設と しての運営のあり方につ いて意見交換を行いました。 併せて、コロナ禍におけ る緊急対応等について も、情報共有・検討を 行いました。	○



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
せいしんしょうがいしゃ 精神障害者 せいかつしえん 生活支援セ んター事業	とうごうしつちょうしゅう 統合失調症をはじめとした せいしんしょうがいしゃ しゃかいふっき じりつ 精神障害者の社会復帰、自立 およ しゃかいさんか しえん 及び社会参加を支援するため かくく に1か所設置している せいしんしょうがいしゃ ちいきせいかつしえん 精神障害者の地域生活支援に おける本市の拠点施設です。 せいしんほけんふくしし はいち 精神保健福祉士を配置し、 にちじょうせいかつ かん そうだん 日常生活に関する相談や じよげん じょうほうていきょう 助言、情報提供のほか、 せんもんい そうだん せいかつ い じ 専門医による相談や生活維持 のためのサービス(食事、 にゅうよく せんたくとう ていきょう 入浴、洗濯等)を提供して います。区や基幹相談支援セ ンターとともに、本市の「地域 せいかつしえんきょてん せいしんしょうがい 生活支援拠点」や「精神障害に たいおう ちいきほうかつ も対応した地域包括ケアシス テム」の中核に位置付けられ ています。	すいしん 推進	みんせつがた うんえい 民設型センターの運営モ ニタリングの仕組みを どうにゆう しょうがいしゃ ちいき 導入し、障害者が地域の いちいん あんしん じぶん 一員として安心して自分ら しい暮らしができるよう区 と協力し、事業化を行 いました。ピアサポート推進 に向けて、勉強会や外部 こうし しょう けんどうかい 講師を招へいたした検討会 をじつし いしきじょうせい ほか を実施し、意識醸成を図 りました。 また、相談機能の充実を もくてき じつむしゃかいぎ 目的とした実務者会議を れいわ ねんど かいさい 令和3年度から開催し、 かくせいかつしえん しょくいん 各生活支援センター職員 がかか げんば かだい が抱える現場の課題を きょうゆう かいけつ む 共有し、解決に向けて取 り組むグループワークを令 わ ねんど ねん かい れいわ 和3年度は年4回、令和4 ねんど ねん かいじつし 年度は年4回実施しまし た。令和5年度も年4回 れいわ ねんど ねん かい 実施予定です。	○	すいしん 推進
たきのうがた 多機能型 きょてん せいび 拠点の整備・ うんえい 運営 あ	つね いりょうてき ひつよう 常に医療的ケアを必要とする じゅうしょうしんしんしょうがいじ しゃどう 重症心身障害児・者等とその かぞく ちいきせいかつ しえん 家族の地域生活を支援するた め、相談支援、短期入所、生活 かいご しんりょう ほうもんかんご きょたく 介護、診療、訪問看護や居宅 かいご いたたいてき ていきょう 介護などを一体的に提供する たきのうがたきょてん せいび しない 多機能型拠点の整備を市内6 ほうめん すす 方面に進めます。	しない 市内4 ほうめんせい 方面整 びかん 備完 りょう 了	しない かんめ ほくとうぶ 市内4館目となる北東部 ほうめんたきのうがたきょてん かしょう 方面多機能型拠点(仮称) れいわ ねんどまつ しゅんこう が令和5年度末に竣工す る予定です。 ひ つづ しない かん せいび 引き続き、市内6館の整備 かんりょう む こうほち 完了に向けて、候補地の けんとう すす 検討を進めていきます。	○	しない 市内 6 ほうめん 方面 せいび 整備 かんりょう 完了

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かせ 振り返り	ひょうか 評価	
こうどうしょうがい 行動障害の ある方の ちいきいこう 地域移行や ちいきせいかつ 地域生活を ささ 支える仕組 みづくり	こうどうしょうがい かつ ひつよう 行動障害のある方に必要とさ れる支援体制について、特に しえんたいせい とく 地域移行や地域生活を支える ちいきいこう ちいきせいかつ ささ 機能の検討を進めます。	けんとう 検討	ちいきいこう ちいきせいかつ ささ 地域移行や地域生活を支 える機能に関する庁内プ ロジェクトを開催し、行動 しょうがい かつ しょうがい 障害のある方の障害 ふくし りようじつせき 福祉サービスの利用実績 および今後の支援の進め方 を共有・検討しました。	○	すいしん 推進
ちいきしえん 地域支援マ ネジャーに よる障害 福祉サービ ス事業所等 への支援	はったつしょうがいしえん 発達障害者支援センターに ちいきしえん ばいち 「地域支援マネジャー」を配置 し、障害福祉サービス事業所 しょうがいふくし じぎょうしょ 等に対し、行動障害・発達 しょうがい かつ しょうがい 障害に係るコンサルテーショ ンを実施します。	すいしん 推進	ちいきしえん 「地域支援マネジャー」に よる、しょうがいふくし 障害福祉サービス じぎょうしょ たい こうどう 事業所等に対する、行動 しょうがい はったつしょうがい かつ 障害・発達障害に係るコ ンサルテーションを実施し ました。	○	すいしん 推進
ちいきせいかつし 地域生活支 援拠点機能 の充実	しょうがい かつ こうれいか 障害のある方の高齢化・ じゅうどか おや あと そな 重度化、親なき後に備えると ともに、ちいきいこう すす 地域移行を進めるた め、きかんそうだんしえん 基幹相談支援センター・ せいかつしえん く ぶんくしほけん 生活支援センター・区福祉保健 センターの3機関一体の運営 により、ちいき しゃかい 地域のあらゆる社会 しげん ゆうきてき 資源を有機的につなぐネット ワーク型の拠点機能を整備し、 がた きよてんきのう せいび 地域での居住支援機能の ちいき きよじゅうしえんきのう 充実を図ります。	すいしん 推進	し じりつしえんきよぎかいちいき 市自立支援協議会地域 せいかつしえんきよてんけんどうぶかい 生活支援拠点検討部会に において、くいき とりくみおよ 区域の取組及び かだい しいき とりくみじょうきょう 課題、市域の取組状 況を きょうゆう きよじゅうしえんきのう 共有し、居住支援機能の じゅうじつ む けんどう おこな 充実に向けた検討を行 いました。	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
せいしんしょうがい 精神障害に もたいおうした ちいきほうかつ 地域包括ケ アシステムの こうちく 構築	せいしんしょうがい かのた せいかつ 精神障害のある方の生活のし づらさを ちいき ささ 地域で支えていくた め、いりょう ぼけん ふくし れんけい 医療・保健・福祉の連携の もと かくくふくしほけん 下、各区福祉保健センター、 せいかつしえん きかんそうだん 生活支援センター、基幹相談 しえん かく きょうぎ 支援センターを核とした「協議 の場」において かんけいしゃ かんけい 関係者・関係 きかん きょうつう にんしき なか 機関が 共通の認識の中 かだいかいけつ む とりくみ けんとう 課題解決に向けた取組の検討 と実施をしていきます。また、 ちいき かだい たい とくせい 地域ごとの課題に対して特性 を 踏まえた 対応ができるよう、 ふ たいおう これを 踏まえた 対応ができるよう、 これまでの しゃかいしげん じゅうぶん 社会資源を十分に かつよう 活用しながら、ネットワーク きのう み なお あら 機能の見直しや新たなつなが りを 構築して いきます。 ※この 取組のため、せいしん 障害者の 障害福祉サービス の利用状況を 把握し、きばん 基盤 せいび か ぶそくとう はあく 整備の過不足等について把握 するため、以下の事項につい て、かつどうしひょう せってい 活動指標として設定しま す。	すいしん 推進	かくくふくしほけん 各区福祉保健センター、 せいかつしえん およ 生活支援センター及び きかんそうだんしえん 基幹相談支援センターを かく きょうぎ ば 核とした「協議の場」にお いて、とりくみ すいしん もくてき 取組の推進を目的と した けんしゅうかい かいさい 研修会を開催するな ど、かくくちいきかだい かいけつ 各区地域課題の解決 む とりくみ じっし に向けた取組を実施しま した。 また、し じりつしえんきょう 市自立支援協 ぎかい ちいきいこう ちいき 議会」の「地域移行・地域 ていちゃくぶかい せいしん 定着部会」において、精神 しょうがいしゃ 障害者がピアスタッフとし て ささ あ しく 支え合える仕組みを けんとう れいわ ねんど 検討し、令和5年度から ちいきせいかつしえん 地域生活支援センターの しょくいんとう たいしゅう 職員等を対象とした せいしんしょうがいしゃ 「精神障害者ピアスタッフ すいしんじぎょう じっし 推進事業」を実施していま す。	○	すいしん 推進



指標名	令和3 ねんど 年度	令和4 ねんど 年度	令和5 ねんど 年度	令和6 ねんど 年度	令和7 ねんど 年度	令和8 ねんど 年度
共同生活援助の 利用者数(精神 障害) (福)	959人 実績 1,018人	997人 実績 1,061人	1,035人 1,126人 (実績見込み)	1,073人	1,111人	1,149人
地域移行支援の利用 者数(精神障害) (福)	108 人/年 実績 63人/年	120 人/年 実績 89人/年	132 人/年 132人/年 (実績見込み)	132 人/年	132 人/年	132 人/年
地域定着支援利用 者数(精神障害) (福)	480 人/年 実績 405人/年	576 人/年 実績 394人/年	672 人/年 672人/年 (実績見込み)	672 人/年	672 人/年	672 人/年
自立生活援助利用 者数(精神障害) (福)	60人/年 実績 51人/年	75人/年 実績 46人/年	90人/年 90人/年 (実績見込み)	90 人/年	90 人/年	90 人/年
自立訓練(生活訓練) 利用者数(精神 障害) (福)(新)	-	-	-	232人	243人	253人
自立生活アシスタ ント利用者数(精神 障害)	323 人/年 実績 376人/年	323 人/年 実績 355人/年	323 人/年 355人/年 (実績見込み)	370 人/年	385 人/年	400 人/年
精神障害者退院サ ポート事業利用者	180人/年 実績 180人/年	180人/年 実績 189人/年	180人/年 190人/年 (実績見込み)	190 人/年	200 人/年	210 人/年



事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			
		目標	振り返り	評価	
精神障害者の家族支援事業 ㊦	精神障害者とその家族が適切な関係を保つため、緊急滞在場所を準備するとともに、家族が精神疾患について理解を深める機会を提供します。	推進	精神障害者とその家族が適切な関係を保てるよう緊急滞在場所を準備しました。また学習会を実施し、家族が精神疾患についての理解を深める機会を提供しました。	○	推進
医療的ケア児・者等の支援のための関係機関の協議の場の開催 ㊦	医療的ケア児・者等への地域における更なる支援の充実に向けて、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るため、横浜市医療的ケア児・者等支援検討委員会において、課題共有、意見交換、対応策等の検討を行います。	推進	横浜市医療的ケア児・者等支援検討委員会を毎年度2回開催し、医療的ケア児・者等の現状や課題の把握、今後の支援体制を検討しました。引き続き、関係機関の連携強化や、医療的ケア児・者等の地域での受入れ体制の充実・強化に取り組んでいきます。	○	推進
医療的ケア児・者等支援者養成 ㊦	受入れ体制の充実を図るため、所属する施設・事業所等において、医療的ケア児・者等の受入れを積極的に行えるよう、支援に必要な知識・技術の普及啓発を行う支援者を養成します。	推進	横浜市医療的ケア児・者等支援者養成研修を実施し、令和3年度は42人、令和4年度は48人の支援者を養成しました。令和5年度は62人が受講しています。	○	推進
メディカルショートステイ事業 ㊦	医療的ケアが必要な重症心身障害児・者等を、在宅で介護する家族の負担軽減と在宅生活の安定を目的として、一時的に在宅生活が困難となった場合などに、病院での受け入れを実施します。	推進	協力医療機関の医療スタッフとの合同会議を実施したほか、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者の受入にも迅速に対応しました。	○	推進



しひよつめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
ちいきせいかつしえんきよてん 地域生活支援拠点の せび 整備 (福)	ぜんくじっし 全区実施	ぜんくじっし 全区実施	ぜんくじっし 全区実施	ぜんくじっし 全区実施	ぜんくじっし 全区実施	ぜんくじっし 全区実施
	じっせき 実績 ぜんくじっし 全区実施	じっせき 実績 ぜんくじっし 全区実施	ぜんくじっし 全区実施 (実績見込み)			
ちいきせいかつしえんきよてん 地域生活支援拠点が ゆう 有する機能の充実 む に向けた検証及び けんとう 検討の実施回数 (福)	かい 1回	かい 1回	かい 1回	かい 1回	かい 1回	かい 1回
	じっせき 実績 かい 2回	じっせき 実績 かい 2回	かい 1回 (実績見込み)			
せいしんしょうがい 精神障害にも対応し た地域包括ケアシ テム ・保健、医療及び福祉 関係者による協議の ば 場の開催回数 (福)	かい 3回 (市域) ていき 定期 (区域)	かい 3回 (市域) ていき 定期 (区域)	かい 3回 (市域) ていき 定期 (区域)	かい 2回 (市域) ていき 定期 (区域)	かい 2回 (市域) ていき 定期 (区域)	かい 2回 (市域) ていき 定期 (区域)
	じっせき 実績 かい 2回 (市域) ていき 定期 (区域)	じっせき 実績 かい 3回 (市域) ていき 定期 (区域)	かい 2回 (市域) ていき 定期 (区域) (実績見込み)			
・保健、医療及び福祉 関係者による目標 設定及び評価の実施 回数 (福)	かい 1回	かい 1回	かい 1回	かい 1回	かい 1回	かい 1回
	じっせき 実績 かい 1回	じっせき 実績 かい 1回	かい 1回 (実績見込み)			
・保健、医療及び福祉 関係者による協議の ば 場への参加者数 (福) (新)	-	-	-	700人	700人	700人
・精神障害者の精神 病床から退院後1年 以内の地域における 平均生活日数 (福)(新)	-	-	-	かながわけん ちょうせい かんりょう のち 神奈川県と調整が完了した後、 ちいき じつじょうとう もと せつてい 地域の実情等を基に設定します。		



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
せいしんびょうしやう ・精神病床における 1 年以上入院患者 数 (福新)	-	-	-	かながわけん ちょうせい かんりやう のち 神奈川県と調整が完了した後、 ちいき じつじやうとう もと せつてい 地域の実情等を基に設定します。		
せいしんびょうしやう ・精神病床における 退院患者の退院後の 行き先 (福新)	-	-	-	かながわけん ちょうせい かんりやう のち 神奈川県と調整が完了した後、 ちいき じつじやうとう もと せつてい 地域の実情等を基に設定します。		
はつたつしやうがいしやしえん 発達障害者支援セン ター及び発達障害者 地域支援マネジャー の関係機関への助言 件数(学齢後期 障害児支援事業分を のぞく) (福)	1,000件 実績 945件	1,000件 実績 1,149件	1,000件 1,100件 (実績見込み)	1,100件	1,100件	1,100件
きやたくかいご 居宅介護(／年) (福)	127,601 時間分 実績 135,648 時間分	129,642 時間分 実績 136,113 時間分	131,716 時間分 138,688 時間分 (実績見込み)	141,612 時間分	144,444 時間分	147,333 時間分
	8,070人 実績 7,781人	8,417人 実績 8,048人	8,778人 8,273人 (実績見込み)	8,521 人	8,768 人	9,023 人
	89,044 時間分 実績 110,593 時間分	99,640 時間分 実績 121,680 時間分	111,497 時間分 140,706 時間分 (実績見込み)	160,642 時間分	184,577 時間分	212,079 時間分
	544人 実績 578人	613人 実績 665人	691人 752人 (実績見込み)	858人	974人	1,107人



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
どうこうえんご 同行援護(／年) 福	16,360 じかんぶん 時間分	17,112 じかんぶん 時間分	17,899 じかんぶん 時間分	15,626 じかんぶん 時間分	15,939 じかんぶん 時間分	16,258 じかんぶん 時間分
	じっせき 実績 14,030 じかんぶん 時間分	じっせき 実績 15,020 じかんぶん 時間分	15,140 じかんぶん 時間分 (実績見込み)			
	856人	894人	934人	851人	881人	913人
	じっせき 実績745人	じっせき 実績793人	814人 じっせき 実績見込み			
こうどうえんご 行動援護 (／年) 福	13,544 じかんぶん 時間分	15,792 じかんぶん 時間分	18,413 じかんぶん 時間分	18,447 じかんぶん 時間分	21,767 じかんぶん 時間分	25,686 じかんぶん 時間分
	じっせき 実績 10,932 じかんぶん 時間分	じっせき 実績 13,249 じかんぶん 時間分	15,267 じかんぶん 時間分 (実績見込み)			
	855人	1,072人	1,344人	976人	1,170人	1,401人
	じっせき 実績 586人	じっせき 実績 681人	828人 じっせき 実績見込み			
たんきにゅうしょ 短期入所 (福祉型)(／月) 福	1,100 にんぶん 人分	1,120 にんぶん 人分	1,140 にんぶん 人分	1,160 にんぶん 人分	1,180 にんぶん 人分	1,200 にんぶん 人分
	じっせき 実績 705人分	じっせき 実績 764人分	926人分 じっせき 実績見込み	(うち重度 しょうがいしゃ 障害者 *3 348人分)	(うち重度 しょうがいしゃ 障害者 354人分)	(うち重度 しょうがいしゃ 障害者 360人分)
	5,500 にんにち 人日	5,600 にんにち 人日	5,700 にんにち 人日	5,800 にんにち 人日	5,900 にんにち 人日	6,000 にんにち 人日
	じっせき 実績 4,404 にんにち 人日	じっせき 実績 4,788 にんにち 人日	5,493 にんにち 人日 (実績見込み)			
たんきにゅうしょ 短期入所 (医療型)(／月) 福	400人分	410人分	420人分	430人分	440人分	450人分
	じっせき 実績 341人分	じっせき 実績 358人分	337人分 じっせき 実績見込み			
	2,000 にんにち 人日	2,050 にんにち 人日	2,100 にんにち 人日	2,150 にんにち 人日	2,200 にんにち 人日	2,250 にんにち 人日
	じっせき 実績 1,658 にんにち 人日	じっせき 実績 1,570 にんにち 人日	1,476 にんにち 人日 (実績見込み)			

しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
にちちゅういちじしえん 日中一時支援 (/月) 福	240人分	240人分	240人分	470 人分	470 人分	470 人分
	実績 292人分	実績 316人分	1,312人分 (実績見込み)			
	800回	800回	800回	800回	800回	800回
	実績600回	実績567回	681回 (実績見込み)			
にちじょうせいかつようぐきゅうふ 日常生活用具給付・ 貸与(/年) 福	86,000件	86,000件	86,000件	89,000 件	89,000 件	89,000 件
	実績 93,905件	実績 90,520件	94,600件 (実績見込み)			
ちいきいこうしえん 地域移行支援(/年) 福	120人分	132人分	144人分	144人分	144人分	144人分
	実績 69人分	実績 89人分	144人分 (実績見込み)			
ちいきていちゃくしえん 地域定着支援 (/年) 福	600人分	720人分	840人分	840 人分	840 人分	840 人分
	実績 459人分	実績 461人分	840人分 (実績見込み)			
せいしんしょうがいしゃたいいん 精神障害者退院 サポート事業 (/年)	180人	180人	180人	190人	200人	210人
	実績 180人	実績 189人	190人 (実績見込み)			

*3…「重度障害者」とは、強度行動障害や高次脳機能障害を有する障害者、医療的ケアを必要とする者等々を表しています。



ほんにん ちから ひ だ しえん じゅうじつ
(2)本人の力を引き出す支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かせ 振り返り	ひょうか 評価	
しょうがいしゃじりつ 生活アシスタ ント ㊤	ちいき たんしんとう せいかつ 地域で単身等で生活する しょうがいしゃ たい じりつせいかつ 障害者に対して、自立生活ア シスタントが、その障害特性 を踏まえて、具体的な生活 場面での社会適応力を高め る助言を中心とした支援を 行います。国の実施事業と の関係を整理しながら推進し ていきます。	すいしん 推進	じりつせいかつ 自立生活アシスタントの 支援力向上のため、令和 3年度は、ガイドラインを 改訂しました。また、令和 4年度に個別支援計画 作成のための検討会を 開催など、障害特性に応 じた対応力の向上に取 り組みました。引き続き、 国事業の状況を踏まえ ながら、事業を推進して いきます。	○	すいしん 推進
こうけんてきしえん 後見的支援 せいど 制度 ㊤	しょうがいしゃほんにん かぞく よ そ 障害者本人や家族に寄り添 い、漠然とした将来の不安や 悩みを一緒に考え、親なき あとも安心して暮らすことが できる地域での見守り体制 を構築します。	すいしん 推進	せいどしゆし しゅうち もくてき 制度趣旨の周知を目的 に広報誌を年1回以上 発行しました。 あんしんキーパーの開拓 を目的に、制度登録した 本人や地域住民らが集 まる場としての「つどう 会」を開催しました。	○	すいしん 推進
しょうひしやきょういく 消費者教育 じぎょう 事業 ㊤	しょうがいしゃ かぞくおよ しえんしや 障害者、家族及び支援者が、 商品・サービスの利用及び 契約に関わるトラブル等を学 ぶことにより、安心した日常 生活を送れるよう、意識啓発 を図ります。	すいしん 推進	じぎょう けいぞくせい がっこう 事業の継続性や学校等 の負担も踏まえ、事業 継続できる形での意識 啓発手法を検討しまし た。 今後は、分かりやすい啓 発物の作成・配布等を通 じた意識啓発など、 効果的な実施手法を 検討します。	△	すいしん 推進



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
じりつせいかつまんじよ ㊦ 自立生活援助 ㊦	80人分 <small>にんぶん</small>	100人分 <small>にんぶん</small>	120人分 <small>にんぶん</small>	120人分 <small>にんぶん</small>	120人分 <small>にんぶん</small>	120人分 <small>にんぶん</small>
	実績 70人分 <small>にんぶん</small>	実績 82人分 <small>にんぶん</small>	120人分 <small>にんぶん</small> (実績見込み)			
じりつせいかつ 自立生活 アシスタント ㊧	690 人分 <small>にんぶん</small>	690 人分 <small>にんぶん</small>	690 人分 <small>にんぶん</small>	800 人分 <small>にんぶん</small>	820 人分 <small>にんぶん</small>	840 人分 <small>にんぶん</small>
	実績 766 人分 <small>にんぶん</small>	実績 774 人分 <small>にんぶん</small>	780 人分 <small>にんぶん</small> (実績見込み)			



いどうしえん
1-3 移動支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かせ 振り返り	ひょうか 評価	
いどうじょうほう 移動情報セ ンター運営 等事業の 推進 ㉞	いどうしえん かん じょうほう 移動支援に関する情報を しゅうやく ひとり 集約し、一人ひとりにあつ た適切な情報を提供する ことや、移動支援を支える じんざい はくくつ いくせい おこな 人材の発掘・育成を行う いどうじょうほう ぜんく 移動情報センターを全区に せつち しない ちいき 設置し、市内のどの地域で も移動支援の仕組みを こうかてき りよう 効果的に利用できるように します。	そうだん 相談 けんすう 件数 3,300 けん 件	せいどしゅうちどう ふじゅうぶん 制度周知等が不十分だつ たこともあり、相談件数が もくひょう とど 目標に届きませんでした。 こんご うんえいきよう 今後は、センター運営協 ぎかいとう こうかてき 議会等において効果的な とりくみ じれい きょうゆう 取組事例を共有するほ か、移動情報センターの さら しゅうち はか いどう 更なる周知を図り、移動 じょうほう にんち 情報センターが認知さ れ、かつよう とく 活用されるよう取り組 んでいきます。 【相談件数】 れいわ ねんど けん 令和3年度:2,223件 れいわ ねんど けん 令和4年度:2,172件 れいわ ねんど けん 令和5年度:2,188件 (見込み)	△	そうだん 相談 けんすう 件数 3,600 けん 件
ガイドヘルパ ー等研修 受講料助成 【再掲】 ㉞	ガイドヘルパー等の資格 しゅとく けんしゅうじゅこうりよう 取得のための研修受講料 いちぶ じよせい じんざいかくほ の一部を助成し、人材確保 をを図ります。	すいしん 推進	れいわ ねんど りいけい 【令和3・4年度累計】 そうじよせいにんずう にん 総助成人数:229人 そうじよせいがく えん 総助成額:4,516,000円 うちわけ ぜんしんせい 内訳:全身性ガイドヘルパ ー26件、知的ガイドヘル パー67件、同行援護 (一般課程)89件、行動 援護53件 【令和5年度(見込み)】 じよせいにんずう にん 助成人数:120人 そうじよせいがく えん 総助成額:2,400,000円	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
ガイドヘルパー ースキルアップ 研修 【再掲】 ㊦	より質の高いサービスが提供 できるよう、移動支援事業の従 業者を対象に研修を実施しま す。	すいしん 推進	いどうしえんじぎょうしょ じゅう 移動支援事業所の従 業者を対象にガイドヘル パーの基礎知識・技術や 障害特性に応じた支援方 法に関する研修を行い ました。 また、サービス提供 責任者を対象に、サービ ス提供責任者等の役割と サービス提供の基本 視点、プロセス等に関する 研修を行いました。	○	すいしん 推進
なんびょうかんじゃ 難病患者 がいしゅつしえん 外出支援サ ービス事業	いっぱん こうつうきかん りよう 一般の交通機関を利用した 外出に困難を伴う、車いす等 を利用する 難病患者に福祉 車両による送迎サービスを 提供します。	すいしん 推進	しんがた 新型コロナウイルス 感染症の影響による 外出自粛や、高齢者施策 及び障害者施策等の 外出支援サービスの活用 により、本事業の利用 登録者数は減少していま す。 りようとうろくしゃすう 利用登録者数 れいわ ねんど にん 令和3年度:50人 れいわ ねんど にん 令和4年度:37人 れいわ ねんど にん みこ 令和5年度:5人(見込み)	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひよう 目標
		もくひよう 目標	ふ かけり 振り返り	ひようか 評価	
ざいたくじゅうしょう 在宅重症 患者外出 支援事業	くるま いどう こんなん 車いすによる移動が困難でス トレッチャー対応車を使用せざ るを得ない難病患者が、通院等 の際、所定の患者等搬送用 自動車を利用した場合に、その 移送費の一部を助成します。	すいしん 推進	しんがた 新型コロナウイルス 感染症蔓延時でも需要 があり、利用者数、回数 とともに増加しました。 【延利用人数(回数)】 令和3年度：174人 (443回) 令和4年度：206人 (491回) 令和5年度：200人 (520回)(見込み)	○	すいしん 推進
ふくしゅうしょう 福祉有償 移動サービ ス事業	いどう かいじょ ひつよう しんたい 移動に介助が必要な身体 障害者等を対象に、登録され たNPO法人等による、自家用 自動車を利用した移動サービ スを促進します。	すいしん 推進	ふくしゅうしょうんそう おこな 福祉有償運送を行う NPO法人等の登録や 福祉有償運送の適正な 実施等について協議す る運営協議会を年3回 開催しました。	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かせ 振り返り	ひょうか 評価	
じゅうどしやうがいしや 重度障害者 とう 等への移動 しえんじぎょう 支援事業の かくじゆう 拡充 *4	こうきやうこうつうきかん 公共交通機関での外出が こんなん じゅうどしやうがいしやとう たい 困難な重度障害者等に対し いどうしえんじぎょう かくじゆう て、移動支援事業の拡充を はか 図ります。	すいしん 推進	れいわ ねん がつ 令和3年10月から障害者 じどうしやねんりようけんせいど しんせつ 自動車燃料券制度の新設 および重度障害者福祉タク シー利用券の対象者の拡大 を図り、電車やバス等での はか でんしゃ とう 外出が困難な重度障害者 がいしゆつ こんなん じゅうどしやうがいしや 等に対して、移動手段の せんたくし ぶ 選択肢を増やしました。	○	すいしん 推進

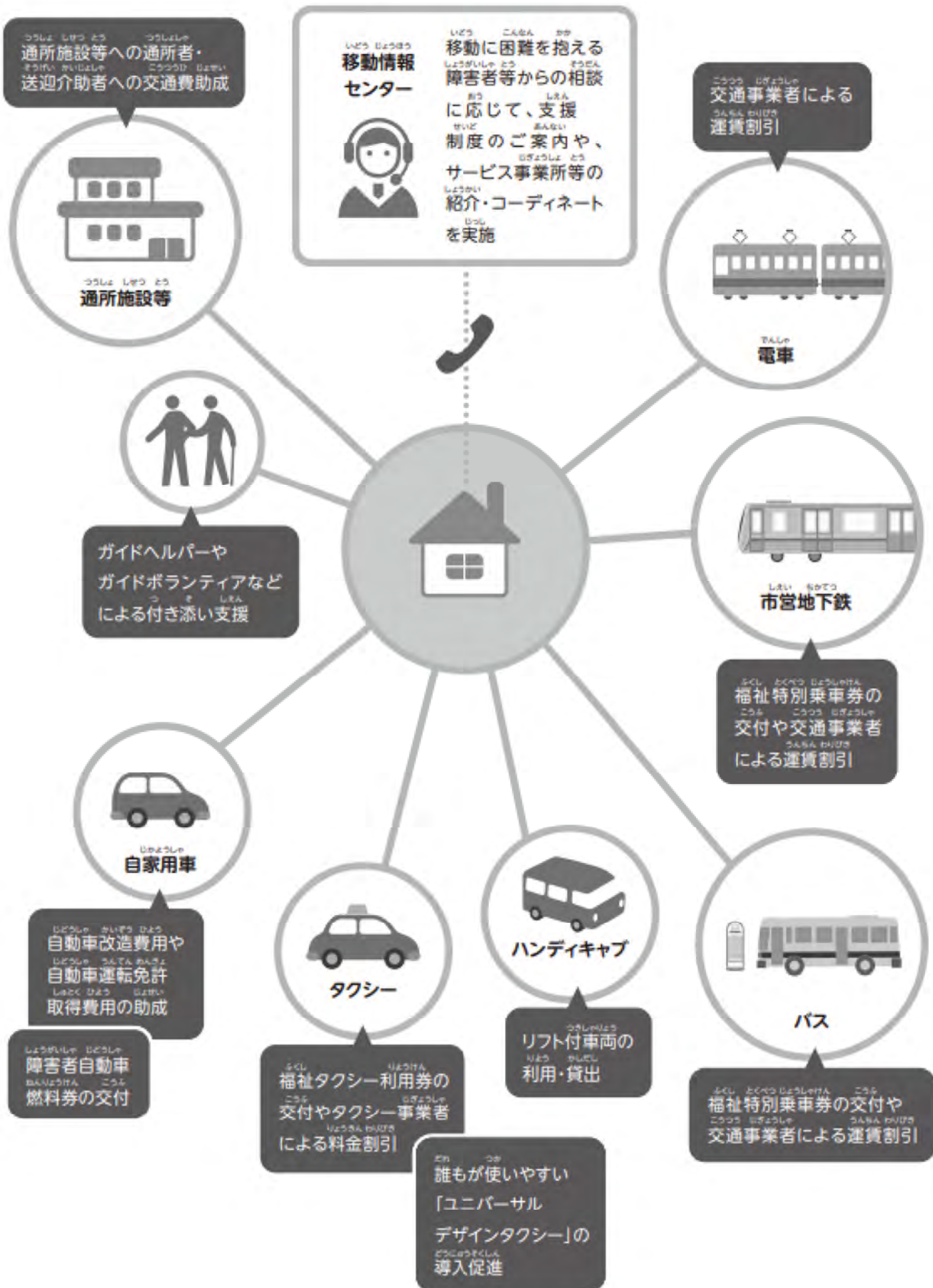
*4…「重度障害者等」とは、障害者自動車燃料券と重度障害者福祉タクシー券での対象者要件を
あらわ
表しています。

- ・下肢・体幹・視覚・内部障害のいずれかを含む1・2級の身体障害者手帳を持っている方
- ・愛の手帳(療育手帳)A1、A2を持っている方又は、障害者更生相談所・児童相談所で知能指数35
以下と判定された方
- ・下肢・体幹・視覚・内部障害のいずれかを含む3級の身体障害者手帳を持っている方のうち、愛の
てちょう りやういくてちょう びー も かつまた しやうがいしやこうせいそだんじよ じどうそだんじよ ちのうしすう
手帳(療育手帳)B1を持っている方又は、障害者更生相談所・児童相談所で知能指数50以下と
はんでい かつ
判定された方
- ・精神障害者保健福祉手帳1級を持っている方

しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
いどうしえんじぎょう 移動支援事業 いどうかいご つうがくつうしよ (移動介護・通学通所 支援) 福	781,554 じかんぶん 時間分	797,185 じかんぶん 時間分	813,128 じかんぶん 時間分	663,719 じかんぶん 時間分	685,622 じかんぶん 時間分	708,248 じかんぶん 時間分
	じつせき 実績	じつせき 実績	641,116 じかんぶん 時間分 (実績見込み)			
	580,689 じかんぶん 時間分	620,937 じかんぶん 時間分		5,963 にんぶん 人分	6,213 にんぶん 人分	6,474 にんぶん 人分
	じつせき 実績	じつせき 実績	5,817 にんぶん 人分 (実績見込み)			



● 障害児・者の移動を支援する様々な仕組み



1-4 まちづくり

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふりかえり 振り返り	ひょうか 評価	
ふくしのまち づくり推進 じぎょう 事業	よこはま かが すべ ひと 「横浜に関わる全ての人がお たが さんちよう たす あ ひと 互いを尊重し、助け合う、人 のやさしさにあふれたまちづく り」を実現するため、ハードと ソフト(かんきようせいび ぶくしきょういく など)を一体的に取り組み、 ふくし 福祉のまちづくりを推進しま す。	すいしん 推進	こむ 子ども向けリーフレット かいていばん けんどう しょくいんどう 改訂版の検討や、職員等を たいしよう けんしゅう かいさい 対象とした研修の開催な どにより、福祉のまちづくり を推進しました。 ふくし じょうれい もと 福祉のまちづくり条例に基 づく事前協議や設計相談 とう てきせつ たいおう 等に適切に対応しました。	○	すいしん 推進
こうきょうこうつう 公共交通 きかん 機関のバリ か アフリー化	だれ いどう かんきよう 誰もが移動しやすい環境 せいび いっかん てつどうえきしゃ 整備の一環として、鉄道駅舎 へのエレベーター等の設置及 びノンステップバスの導入 そくしん はか 促進を図ります。	すいしん 推進	えきしゃ せっち ぐ 駅舎エレベーター設置の具 体的な計画がある2駅につ いて、事業者から具体的な こうじ じきとう じょうほうしゅうしゅう 工事時期等の情報収集を おこな 行いました。 くに きょうちようほじょ 国との協調補助であるノ ンステップバスの導入補助 について、国の導入率の もくひょうち ばーせんとう したまわ 目標値(80%)を下回っ ているバス事業者に対し て、補助を実施しました。ま た、令和5年度のノンステッ プバスの導入率は 81.8 ばーせんとう みこ %(見込み)となってお り、過年度実績から8年度 の目標達成が可能な推移 となっています。	○	ノンステ ップバス 導入率 89 % 以上 (見込 み)



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひよう 目標
		もくひよう 目標	ふ かけ 振り返り	ひょうか 評価	
バリアフリー の推進 ・バリアフ ー基本構想 の検討・作成	バリアフリー法に基づき、駅 周辺の重点的かつ一体的なバ リアフリー整備を推進するた め、区ごとにバリアフリー基本 構想を作成します。 ・策定済み地区の見直しや、 未策定地区の新規作成等	すす 進	いそごく なかく はぎわよこはま 磯子区、中区、羽沢横浜 こくだいえきしゅうへん ちく おどりば 国大駅周辺地区、踊場 えきしゅうへん ちく 駅周辺地区でバリアフ リー基本構想を策定し ました。 また、令和5年度には こうほくく みどりく 港北区、緑区でバリアフ リー基本構想を策定し ます。	○	すいしん 推進
・バリアフ ー歩行空間 の整備	駅周辺のバリアフリー化を推進 するため、バリアフリー基本 構想に基づき、道路のバリアフ リー化を、引き続き、進めます。	すいしん 推進	とおかいちばえきしゅうへん ちく とう 十日市場駅周辺地区等 にてE Vの設置や ほどうせいび ほどうこうばい 歩道整備、歩道勾配 かいしゅうとう じっし れいわ 改修等を実施(令和3 ねんど れいわ ねんど 年度~令和4年度)しま した。	○	すいしん 推進
横浜市公共 サインガイド ラインの 運用推進	公的機関により設置される歩 行者用案内・誘導サインの規格 や表示内容等の統一を図るた めのガイドラインの運用を推進 します。 また、公共サインの掲載基準等 について必要に応じて見直しを 検討し、より歩行者に分かりや すいサイン整備を進めていきま す。	すいしん 推進	こうきょう 公共サインの掲載基準 等について、中間期は み なお ひつようせい 見直しの必要性があり ませんでした。ひき続 き、ガイドラインの運用 を推進するとともに、よ り歩行者にわかりやす いサイン整備を誘導し ていきます。	△	すいしん 推進
エレベーター 設置事業	エレベーターの整備など、学校 施設のバリアフリー化を進め、 障害児が学びやすい環境を 整備します。	すいしん 推進	インクルーシブ社会の じつげん む がっこう 実現に向け学校におけ るバリアフリー化を かそく ぜんこう そうき 加速させ全校への早期 せいび とく 整備に取り組んでいま す。	○	すいしん 推進



せいかつ ばめん あんぜん あんしん
生活の場面2 安全・安心

けんこう いりょう
2-1 健康・医療

しょうがいしゃ けんこう すいしん
(1) 障害者の健康づくりの推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
しょうがいしゃ 障害者への スポーツを つうじた健康・ たいりよくづく 体力作り しえん 支援	しょうがいとくせい りかい しょうがいしゃ 障害特性を理解した障害者ス ポーツぶんか ポーツ文化センターのスタッフ とう しょうがいしゃ たいりよく 等が、障害者が体力づくりや よ かかつどう みちか ぼしよ おこな 余暇活動を身近な場所で行え るよう、ちいき じんざいいくせい かく 地域の人材育成も含め たかんきょうせいび すす 環境整備を進めます。	すいしん 推進	よこはまし きょうかい 横浜市スポーツ協会と のれんけい ぶか の連携を深め、スポー ツセンターにしょうがいしゃ スポーツ指導員を配置す るなど、しょうがい 障害のある人 がみちか ぼしよ が身近な場所でスポー ツにとくく 取り組める かんきょうづく すいしん 環境作りを推進しまし た。	○	すいしん 推進
しょうがいふくし 障害福祉 しせつしよくいんとう 施設職員等 へのしえん 支援 【再掲】	しょうがいしゃ きゅうおーえる こうじょう め ぎ 障害者のQ O Lの向上を目指 して、しょうがいとくせい 障害特性やライフステー ジにおう しょうがい じゅうどか に応じた障害の重度化の かんわ せいかつしゅうかんびょう よぼうとう 緩和、生活習慣病の予防等の ふきゅうけいはつ はか しょうがいふくし 普及啓発を図るため、障害福祉 しせつ 施設におけるえいせいかんり えいよう 管理に関するけんしゅう れんらくかいとう 研修、連絡会等を じっし 実施します。	すいしん 推進	しょうがいふくししせつ しょういん 障害福祉施設の職員 をたいしやう 対象としたしよくひんえいせい 食品衛生 こうしゅうかい せつしよくえんげ 講習会や摂食嚥下 けんしゅう どうがはいしん じっし 研修(動画配信)を実施 しました。	○	すいしん 推進

いりょうかんきょう じゅうじつ
(2)医療環境の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
なんびょうかんじゃ 難病患者 いちじにゅういん 一時入院 じぎょう 事業	いりょういそんど たか なんびょう 医療依存度の高い難病 かんじゃ かいじょしゃ じじょう 患者が介助者の事情によ り、在宅で介助を受けるこ とが困難になった場合、 いちじてき にゅういん 一時的に入院できるように します。	すいしん 推進	しんがた かんせんしやう 新型コロナウイルス感染症の えいきやう のべりようにつう のべり 影響により延利用日数、延利 ようになずう げんしやう 用人数が減少しましたが、と もにぞう かけいこう 増加傾向にあります。ま た、うけいれいりやうきかん しょ 受入医療機関を7か所から 9か所に増やし、利用者の りべんせいこうじやう ほか 利便性向上を図りました。	○	すいしん 推進
			<p>のべりようにつう 【延利用日数】 れいわ ねんど にち 令和3年度:362日 れいわ ねんど にち 令和4年度:460日 れいわ ねんど にち み こ 令和5年度:504日(見込み)</p> <p>のべりようになずう 【延利用人数】 れいわ ねんど にん 令和3年度:47人 れいわ ねんど にん 令和4年度:61人 れいわ ねんど にん み こ 令和5年度:68人(見込み)</p> <p>うけいれいりやうきかんすう 【受入医療機関数】 れいわ ねんど しょ 令和3年度:7か所 れいわ ねんど しょ 令和4年度:8か所 れいわ ねんど しょ 令和5年度:9か所</p>		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひよう 目標
		もくひよう 目標	ふ かい 振り返り	ひようか 評価	
し か ほけん 歯科保健 いりようすいしん 医療推進 じぎょう しんしん 事業(心身 障害児・者 し か しんりよう 歯科診療)	つうじょう し か しんりよう たいおう 通常の歯科診療では対応が こんなん しんしんしょうがいじ しゃ たい 困難な心身障害児・者に対す し か ちりよう かくほ ひ つづ る歯科治療の確保を引き続 きはか き図ります。	すいしん 推進	し か ほけん いりよう 歯科保健医療センターにお けるしんしんしょうがいじ しゃ し か しん 心身障害児・者歯科診 りょうけんすう けん 療件数(件) れいわ ねんど 令和3年度:9,677 れいわ ねんど 令和4年度:9,388 れいわ ねんど 令和5年度:9,500(見込み)	○	すいしん 推進
メディカルシ ョートステイ 事業 【再掲】 ㊦	いりようてき ひつよう じゅうしょう 医療的ケアが必要な重症 しんしんしょうがいじ しゃとう ざいたく 心身障害児・者等を、在宅で かいご かぞく ふたんけいげん 介護する家族の負担軽減と ざいたくせいかつ あんてい もくてき 在宅生活の安定を目的とし いちじてき ざいたくせいかつ こんなん て、一時的に在宅生活が困難 ばあい びょういん となった場合などに、病院で うけいれ じっし の受け入れを実施します。	すいしん 推進	きょうりよくいりようきかん いりよう 協力医療機関の医療スタッ フとの合同会議を実施したほ か、しんがた 新型 コロナウイルス かんせんしょう のうこうせつしょくしゃ うけいれ 感染症の濃厚接触者の受入 じんそく たいおう にも迅速に対応しました。	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
なんびょうかんじゃ 難病患者 ざいたくりょうよう 在宅療養 けいかくさくてい 計画策定・ ひょうかじぎょう 評価事業	ざいたくなんびょうかんじゃ たい 在宅難病患者に対し、 ほけん いりょう ふくし かく 保健・医療・福祉の各サービ スを適切に提供するため に、関係者が合同でサービ ス内容を検討します。	すいしん 推進	れいわ ねんど しんがた 令和3年度は新型コロナウイルス 感染症の影響により、対面 による計画の策定・評価事業 の実施が困難な状況でした が、令和4年度は難病患者の ざいたくりょうようせいかつ ささ 在宅療養生活を支えるケアマ ネジャーの人材育成を目的に、 ざいたくりょうようけいかく さくてい ひょうか 在宅療養計画の策定・評価の じれいけんどう じっし 事例検討を実施しました。	○	すいしん 推進
いりょうきかん 医療機関 れんけいじぎょう 連携事業 ②	しょうがいじ しゃ みちか ちいき 障害児・者が身近な地域で 適切な医療が受けられる 環境づくりを推進するた め、障害特性等を理解し 適切な医療を提供できる いりょうきかん ぐ 医療機関を増やします。	すいしん 推進	しょうがいとくせいとう りかい てきせつ 障害特性等を理解し、適切な いりょう ていきょう いりょうきかん 医療を提供できる医療機関と して、知的障害者専門外来を びょういん うんえい 5病院で運営しています。 ひ つづ し ない いりょうきかん 引き続き市内の医療機関との ちょうせい すず さら うけいれたいせい 調整を進め、更なる受入体制 の拡大に取り組みます。	○	すいしん 推進
じゅうどしんけい 重度神経 なんびょうかんじゃ 難病患者 ざいたくしえん 在宅支援シ ステムの こうちく 構築	はつびょう すうねん きゅうそく 発病から数年で急速に 進行する神経難病患者に 対する在宅支援システム を、専門医療機関・在宅リハ ビリテーション等の保健・ いりょうかんけいしゃ しょうがいふくし 医療関係者と障害福祉サ ービス事業等との連携によ り、構築します。 えーえすかんじゃ ぐわ きん ・ALS患者に加え、筋ジス トロフィー症患者のライフ ステージに合わせた生活 しょうがいしえん もくてき ざいたく 障害支援を目的に、在宅リ ハビリテーションを活用す る流れを構築します。	こうちく 構築	しんけいなんびょうかんじゃ たい ざいたく 神経難病患者に対する在宅 しえん しょうちく む 支援システムの構築に向けて、 ざいたく じぎょう 在宅リハビリテーション事業を かつよう 活用しました。 れいわ ねんど じぎょうじっせき 【令和3、4年度事業実績】 えーえすかんじゃの めい きん ALS患者延べ301名、筋ジ ストロフィー症患者延べ116 めい 名	○	じっし 実施



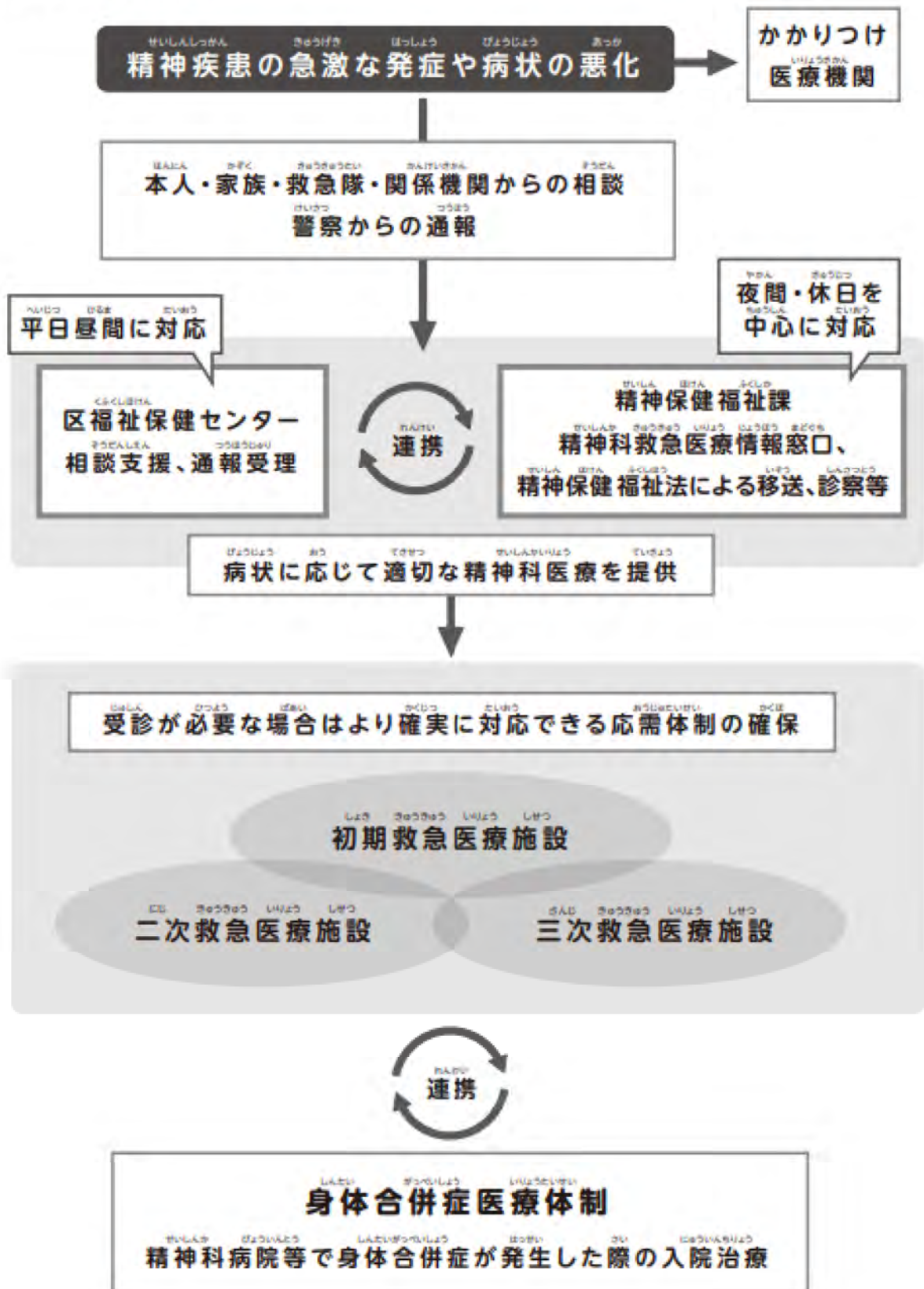
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)		もくひょう 目標	
		もくひょう 目標	ひょうか 評価		
ざいたくりょうようじ 在宅療養児 の地域生活 を支えるネ ットワーク 連絡会	しょうがいじ しゃ いりょう にゆういん 障害児・者の医療(入院・ ざいたく かか いりょうかんけいしゃ 在宅)に関わる医療関係者 を中心に、福祉・教育 かんけいしゃ たいしやう ざいたく 関係者を対象として、在宅 しえん ひつよう じやうほうこうかん 支援に必要な情報交換や じんてきこうりゆう つう しょうがい 人的交流を通じて、障害 りかい そくしん 理解を促進します。	すいしん 推進	まいねんど かいれんらくかい かいさい しえん 毎年度1回連絡会を開催し、支援 しゃ りかいそくしん はか 者の理解促進を図りました。 れいわ ねんど うえぶ さんかしゃ めい 令和3年度(Web)参加者281名 れいわ ねんど うえぶ さんかしゃ めい 令和4年度(Web)参加者213名 れいわ ねんど うえぶ がつごろじっし よてい 令和5年度(Web)2月頃実施予定	○	すいしん 推進
じゅうしょうしんしん 重症心身 障害児・者 の在宅生活 を支えるた めの支援 体制の 充実	じゅうしょうしんしんしょうがいじ しゃ 重症心身障害児・者の ざいたくせいかつ ささ 在宅生活を支えるための いりやうたいせい 医療体制をはじめとする けんとう おこな しえんたいせい 検討を行い、支援体制の じゅうじつ はか 充実を図ります。	けんとう 検討	しょうにほうもんかんご じゅうしょうしんしんしょうがい 「小児訪問看護・重症心身障害 じしゃかんごけんしゅうかい じっし 児者看護研修会」を実施すること で、じゅうしょうしんしんしょうがいじ いりやうてき 重症心身障害児や医療的ケ あ じ しゃとう りかい ふか しえん ア児・者等への理解が深まり、支援 たいせい じゅうじつ 体制の充実につながりました。	○	すいしん 推進
じゅうど 重度 しょうがいしゃどう 障害者等 にゆういん じ 入院時コ ミュニケー ション支援 じぎょう 事業 ㊤	にゆういんさきいりやうきかん い し 入院先医療機関の医師・ かんごしどう い し そつう 看護師等との意思疎通が じゅうぶん はか しょうがいじ しゃ 十分に図れない障害児・者 たいしやう にゆういんさき を対象に、入院先にコミュ ニケーション支援員を派遣 しえんいん はけん します。	すいしん 推進	しんがた かんせんしょう えいきやう 新型コロナウイルス感染症の影響 により、コミュニケーション支援員 はけんけんすう げんしょう の派遣件数が減少していました が、にゆういんさきいりやうきかん い し 入院先医療機関の医師・ かんごしどう い し そつう はか 看護師等との意思疎通が図れるよ う、ひきつづ にゆういんさき 引き続き入院先にコミュニケ ーション支援員を派遣します。	△	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かけ 振り返り	ひょうか 評価	
けんこう 健康ノート	しょうがいじ しゃ じぶん す ちいき 障害児・者が自分の住む地域 の医療機関で受診する際に 活用できる「健康ノート」につ いて、入手しやすくなるよう 検討し、より活用できるように します。	すいしん 推進	まどぐち はいか ほんし 窓口での配架や本市ウ ェブサイトへの掲載を 行い、誰でも活用 出来るようにしました。	○	すいしん 推進
いりようじゅうじしゃ 医療従事者 けんしゅうじぎょう 研修事業 【再掲】 ㊦	びょうき しょうがい しょうにおよ 病気や障害のある小児及び 重症心身障害児・者の支援に 必要な知識・技術の向上を 図り、障害特性を理解した医療 従事者を育成するための研修 を実施します。	すいしん 推進	いりようきかん ふくししせつとう 医療機関や福祉施設等 に勤務する看護師を 対象に「小児訪問看護・ 重症心身障害児者 看護研修会」を実施し ました。	○	すいしん 推進
しょうがいふくし 障害福祉 しせつとう へたら 施設等で働 く看護師の 支援 【再掲】 ㊦	しょうがいふくししせつとう へたら 障害福祉施設等で働く 看護師の定着に向けた支援を 行うとともに、人材確保の 方策について検討します。	すいしん 推進	しょうがいふくししせつ へたら 障害福祉施設で働く 看護師向けに、歯科 医師による口腔機能 管理をテーマとした 講義動画の配信や 多職種連携に関する研 修、各施設への訪問に よる技術的な指導を 実施しました。	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひよう 目標
		もくひよう 目標	ふ かえ 振り返り	ひようか 評価	
せいしんか 精神科 きゅうきゅういりよう 救急医療 たいさくじぎょう 対策事業	せいしんしっかん 精神疾患の きゅうげき はっしょう せいしん 急激な発症や精神 しょうじょう あつか 症状の悪化など で、さっきゅう てきせつ で、早急に適切な せいしんか 精神科医療を必要 とする場合に、せいしん 保健福祉法に基づ くしんさつ びょういん 診察や病院の しょうかい おこな 紹介を行うととも に、ひつよう いりよう に、必要な医療 しせつ かくほ 施設を確保するこ と等により、ひきつづ ききゅうきゅうかんじゃ 救急患者の えんかつ いりようおよ 円滑な医療及び ほご はか 保護を図ります。	すいしん 推進	しんがた 新型 新型コロナウイルスの かんせんかくだい 感染拡大による せいしんかきゅうきゅう 精神科救急のベッドが ひつぱく 逼迫する中、 びょういん いりようげんば げんじょう ひつよう しえん 病院から医療現場の現状、必要な支援 やふあんとう ききと つと 不安等の聞き取りに努めました。ま た、れいわ ねんどおよ ねんど しんがた 令和3年度及び4年度は、新 型コロナ ウイルスのかんせん 感染が疑われるきゅう きゅうかん 救急患者を受入れた せいしんか 精神科病院に対する補 けいぞく たいせい いじ つと 助を継続し、体制の維持に努めました。 【3次救急通報等件数】 れいわ ねんど けん 令和3年度:888件 れいわ ねんど けん 令和4年度:759件 れいわ ねんど けん みこ 令和5年度:894件(見込み) 【3次救急移送先病院の市内病院の割合】 れいわ ねんど ばんせんと 令和3年度:84.7 % れいわ ねんど ばんせんと 令和4年度:87.1 % れいわ ねんど ばんせんと みこ 令和5年度:93.6 % (見込み)	○	90 ばんせんと % (3次 きゅうきゅう 救急 いそうさき 移送先 びょういん 病院 の市内 びょういん 病院 の わりあい 割合) 80 ばんせんと % (ソフト きゅうきゅう 救急 いそうさき 移送先 びょういん 病院 の市内 びょういん 病院 の わりあい 割合)
せいしんしっかん 精神疾患を がっぺい 合併する しんたいきゅうきゅう 身体救急患者 の救急医療 きゅういりようたいせい 急医療体制 せいびじぎょう 整備事業	せいしんしっかん がっぺい 精神疾患を合併す るしんたいきゅうきゅうかんじゃ 身体救急患者 をてきせつ いりようきかん 適切な医療機関 えんかつ はんそう へ円滑に搬送でき るよう、きゅうきゅういりよう 救急医療 たいせい こうちく 体制を構築します。	すいしん 推進	せいしんしっかん 精神疾患のうち、 とくていしょうじょう ゆう 特定症状を有する しんたいきゅうきゅうかんじゃ 身体救急患者に たいおう いりようきかん 対応する医療機 かん 関によるりんばん 輪番体制を平日 へいじつひるま 昼間だけでなく、 やかんきゅうじつ 夜間休日もせい 整備することで、 せいしんしっかん 精神疾患 をがっぺい 合併するしん たいきゅうきゅう 身体救急患者 のうけいれたい 受入体制 をかくほ 確保しました。 こんご ひようたいこうか けんしょう ひつよう 今後は、費用対効果の検証や、必要に おう たいせい み なお けんとう おこな 応じた体制見直 しのけんとう 検討を行い、よ り こうかてき きゅうきゅういりようたいせい 効果的な救急医療体制の構築を図 ります。	○	すいしん 推進



● 救急医療体制図



初期救急：精神症状の悪化により、外来診療が必要とされる場合

二次救急：精神症状の悪化により、入院治療が必要とされる場合

三次救急：自傷他害のおそれがあり、警察官などの通報により診察を実施する場合



ぼうさい げんさい
2-2 防災・減災

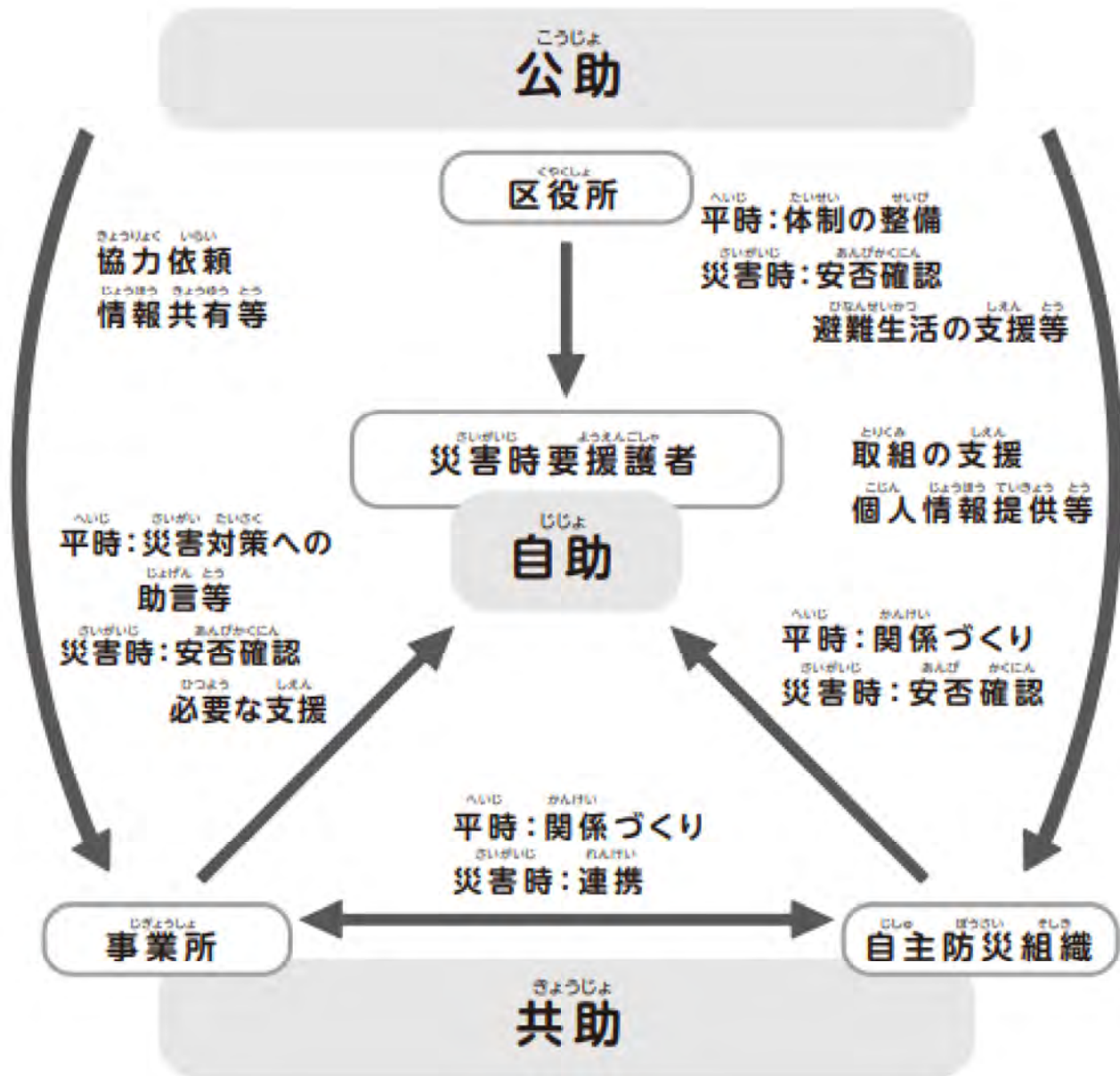
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき (れいわ ねんど) 中間期(令和3~5年度)			
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
さいがいじ 災害時 ようえんごしや 要援護者 しえんじぎょう 支援事業	さいがいじ じりきひなん こんなん 災害時に自力避難が困難な ようえんごしや あんびかくにん ひなん 要援護者の安否確認や避難 しえんとう かつどう えんかつ おこな 支援等の活動が円滑に行わ れるよう、さいがいじ しようえんごしや めいぼ ひなんしえん ひつよう じょうほう 名簿や避難支援に必要な情報 をちいき ていきょう ひごろ を地域に提供し、日頃からの ちいき じしゆてき ささあ 地域における自主的な支え合 いのとりくみ しえん の取組を支援します。	すいしん 推進	さいがいじ しようえんごしやしえん とりくみ 災害時要援護者支援の取組を じっし 実施している自治会・町内会 のわりあい ぞうか 割合は増加しています。 また、れいわ ねんど 令和4年度からは、 ようえんごしや たい こべつひなん 要援護者に対する個別避難 けいかく じぎょう ちゃくしゆ 計画のモデル事業に着手して います。引き続き、地域におけ るさいがいじ しようえんごしやしえん とりくみ 災害時要援護者支援の取組 をしえん を支援していきます。	○	すいしん 推進
しょうがいしや 障害者・ しえんしや 支援者によ るさいがいじ とう 災害時等 のしょうがいりかい 障害理解 そくしん 促進	よこはま えすねつとよこはま かんけいきかん 横浜(S-net横浜)や関係機関 とう れんけい かくく じっし 等と連携し、各区で実施される ちいき ぼうさいきょてんくんれんとう しょうがいしや 地域防災拠点訓練等で障害者 りかい そくしん 理解を促進します。	すいしん 推進	よこはまとう しょうがいりかい かが ぶん 横浜等の障害理解に係る普 きゅう けいはつかつどう つう しょうがい 及・啓発活動を通じ、障害 りかい すいしん とく 理解の推進に取り組みました。	○	すいしん 推進
さいがいじ とう 災害時等の じじよりよくこうじょう 自助力向上 にむかへたツ ールの作成 およ ぶんきゅう 及び普及・ けいはつ 啓発	ふうすいがい ふうく さいがいじ そな 風水害を含めた災害時に備 え、じじよりよく こうじょう 自助力の向上のためのツ ールのけんとう さくせい ほんし ールの検討・作成と、本市ウェ ブサイト等を活用した普及・ けいはつ おこな 啓発を行っていきます。	すいしん 推進	ひなんこうどうけいかく 避難行動計画「マイ・タイムライ ン」を「障害福祉のあんない」 にけいさい に掲載できるように関係課と ちようせい れいわ ねんど けいさい 調整し、令和5年度から掲載 しました。	○	すいしん 推進
さいがいじ 災害時にお けるじじよ 自助・ きょうじよ じょうほう 共助の情報 きょうじよ 共有の推進	よこはまししょうがいしやし さくすいしんきょう 横浜市障害者施策推進協 ぎかい かくだんたい かいぎたい 議会や各団体の会議体にて、 さいがいじ じじよ きょうじよ 災害時における自助・共助に ついてじょうほうきょうゆう おこな 情報共有を行います。	じっし 実施	れいわ ねんど ほんし 令和4年度から、本市における げんさい ぼうさい とりくみじょうきょう 減災・防災の取組状況を よこはまししょうがいしやし さくすいしんきょう 横浜市障害者施策推進協 ぎかいおよ しょうがいしやし さくけんとうぶかい 議会及び障害者施策検討部会 にほうこく に報告し、いただいたご意見 かんけいさ 共有の推進 を関係課と共有しました。	○	じっし 実施



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
しょうがいしゅべつ 障害種別 おうきゅうびちく 応急備蓄 ぶっしれんけい 物資連携 じぎょう 事業	しょうがいとくせい おう おうきゅうびちく 障害特性に応じた応急備蓄 ぶっし ひ つづ ほかん 物資について、引き続き保管 できるよう、普及・啓発を じっし 実施します。	じっし 実施	く ちいきかつどう 18区の地域活動ホームに せっち びちくよう 設置している備蓄用ロッカ ーをりよう、さいがいじ そな -を利用し、災害時に備え たストーマ用具の保管が できるよう、普及・啓発を じっし 継続しました。	○	じっし 実施
しょうがいふくし 障害福祉サ ービス じぎょうしやとう 事業所等に おけるサー ビス提供等 ていきょうとう 継続支援	しょうがいふくし じぎょうしやとう 障害福祉サービス事業所等 たい へいじょうじ に対して、平常時から、 かんせんしやう りゅうこう そな 感染症の流行に備え、 えいせいぶつびんとう びちく じぎょうけいぞく 衛生物品等の備蓄、事業継続 けいかく さくてい ひつよう じゅんび 計画の策定など必要な準備 について、普及啓発を せい 行います。また、緊急時にはサー ビス提供等の継続に向けた ていきょうとう けいぞく む 支援を行います。	けんとう 検討・ すいしん 推進	ぎょうむけいぞくけいかくさくてい む 業務継続計画策定に向けた けんしゅう れいわ ねんどおよ れいわ 研修を令和3年度及び令和 ねんど かいさい 4年度に開催しました。 また、抗原検査キットを こうげんけんさ 全事業所に配付するととも ぜんじぎょうしや はいふ に、サービス継続のための けいぞく かかり増し経費の助成を ま けいひ じよせい 行いました。	○	すいしん 推進
ようでんげん 要電源 しょうがいじやとう 障害児者等 さいがいじ でんげん 災害時電源 かくほしえん 確保支援 じぎょう 事業(新)	でんげん よう いりょうき き 電源を要する医療機器を ざいたく しやう しょうがいじ しゃとう 在宅で使用する障害児・者等 たい さいがいじ せいめい い じ に対し、災害時に生命を維持 する上で必要となる非常用 うえ ひつよう ひじょうよう 電源装置等の確保を支援し、 でんげんそうちとう かくほ しえん 自助の強化に繋げることを じじよ きょうか つな 目的とした給付を行います。	-	-		すいしん 推進



●横浜市防災計画(地震編)の自助・共助・公助の図



せいかつ ばめん はぐく まな
生活の場面3 育む・学ぶ

りょういく
3-1 療育

ちいきりょういく ちゅうしん しえん じゅうじつ
(1) 地域療育センターを中心とした支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
ちいきりょういく 地域療育 センター うんえいじぎょう 運営事業	しょうがい 障害がある、またはその うたが 疑いのある児童に、せんもんせい 専門性の たか 高い評価や支援計画に基 つぎ、しゅうだんりょういく 集団療育や保育所、 ようちえんおよ 幼稚園及び学校への巡回 ほうもん 訪問、ほごしゃしえんどう 保護者支援等を行います。	すいしん 推進	しゅうだんりょういく 集団療育や区福祉保健センタ ーの療育相談へのスタッフ派遣 等により、しょうがい 障害のある児童や ほごしゃ 保護者への支援を行いました。 ほいくじょ 保育所、幼稚園及び学校等への じゅんかいほうもんどう 巡回訪問等により、しょうがい 障害のある児童の地域社会への参加・イ ンクルージョンの推進を図りました。 ちゅうかくしょうがいじしえん 聴覚障害児支援について、しえん 支援 たいせい 体制の充実を図るために、かんけい 関係 きかん 機関の連携を促進するため きょうぎかいせつちどう 協議会設置等の準備を進めて いきます。	○	すいしん 推進

指標名	令和3 ねんど 年度	令和4 ねんど 年度	令和5 ねんど 年度	令和6 ねんど 年度	令和7 ねんど 年度	令和8 ねんど 年度
保育所等訪問支援 (受給者数/月、延べ 利用日数/年) ㊦	600人	650人	700人	1,200 人	1,300 人	1,400 人
	実績 988人	実績 1,132人	1,296人 (実績見込み)			
	4,800人日	5,200人日	5,600人日	12,500 人日	15,800 人日	20,000 人日
	実績 6,887人日	実績 9,869人日	11,307人日 (実績見込み)			
児童発達支援(地域 療育センター実施分 を含む)(事業所数/ 年、受給者数/月、延 べ利用日数/年) ㊦	190か所	200か所	210か所	250 か所	270 か所	290 か所
	実績 209か所	実績 232か所	258か所 (実績見込み)			
	3,800人	4,000人	4,000人	4,800 人	5,000 人	5,200 人
	実績 4,270人	実績 4,797人	4,800人 (実績見込み)			
	297,000 人日	314,900 人日	327,500 人日	382,400 人日	391,100 人日	400,000 人日
	実績 350,856 人日	実績 319,684 人日	337,864 人日 (実績見込み)			
児童発達支援のうち、 主に重症心身 障害児を支援する 事業所(地域療育セ ンター実施分を含 む)(事業所数/年、 受給者数/月、延べ 利用日数/年) ㊦	5か所	6か所	7か所	10か所	10か所	11か所
	実績7か所	実績9か所	10か所 (実績見込み)			
	25人	30人	35人	35人	37人	39人
	実績30人	実績33人	35人 (実績見込み)			
	1,500 人日	1,800 人日	2,100 人日	6,000 人日	8,000 人日	10,000 人日
	実績 3,079 人日	実績 4,507 人日	6,000 人日 (実績見込み)			



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
いりょうがたじどうはったつしえん 医療型児童発達支援 ちいきりょういく (地域療育センター じっしげん 実施分を含む) (じぎょうしよすう 事業所数 / 年、 じゆきゆうしやすう 受給者数 / 月、延べ りょうにつさう 利用日数 / 年) ㊦	9か所	9か所	9か所	9か所	9か所	9か所
	じっせき 実績9か所	じっせき 実績9か所	9か所 (じっせきみこ 実績見込み)			
	185人	185人	185人	185人	185人	185人
	じっせき 実績168人	じっせき 実績162人	170人 (じっせきみこ 実績見込み)			
	18,000 にんにち 人日	18,000 にんにち 人日	18,000 にんにち 人日	18,000 にんにち 人日	18,000 にんにち 人日	18,000 にんにち 人日
	じっせき 実績 13,749 にんにち 人日	じっせき 実績 11,489 にんにち 人日	14,000 にんにち 人日 (じっせきみこ 実績見込み)			
きょたくほうもんがたじどうはったつ 居宅訪問型児童発達 しえん じぎょうしよすう 支援(事業所数 / 年、 じゆきゆうしやすう 受給者数 / 月、延べ りょうにつさう 利用日数 / 年) ㊦	1か所	1か所	1か所	2か所	3か所	3か所
	じっせき 実績1か所	じっせき 実績2か所	3か所 (じっせきみこ 実績見込み)			
	30人	30人	30人	30人	30人	30人
	じっせき 実績16人	じっせき 実績21人	26人 (じっせきみこ 実績見込み)			
	60人日	60人日	60人日	1,700 にんにち 人日	2,500 にんにち 人日	3,500 にんにち 人日
	じっせき 実績 737 にんにち 人日	じっせき 実績 1,149 にんにち 人日	1,336 にんにち 人日 (じっせきみこ 実績見込み)			



き め し えん たい せい し ゅ う じ つ
(2)切れ目のない支援体制の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
ちいきくんれんかい 地域訓練会 うんえいひじょせい 運営費助成 じぎょう 事業	しょうがいじ ほごしゃとう 障害児の保護者等が じしゆてき そしき ちいき 自主的に組織し、地域で きのうかいふくくんれん ほいく おこな 機能回復訓練や保育を行 う、地域訓練会の運営費を じょせい 助成します。	すいしん 推進	じょせいたいしやうだんたいすう 【助成対象団体数】 れいわ ねんど だんたい 令和3年度:46団体 れいわ ねんど だんたい 令和4年度:45団体 れいわ ねんど だんたい みこ 令和5年度:46団体(見込み)	○	すいしん 推進
ペアレント レーニング 実施者の 養成	こ ほんにん へん せい えん あ 子ども本人への支援と合 わけて重要である保護者 への支援として、主に しょうがいじつうしよ せい えん じぎょうしよ とう 障害児通所支援事業所等 において、職員に対しペア レントレーニング実施者 ようせいけんしゅう おこな 養成研修を行います。	すいしん 推進	しんがた かんせんかくだい 新型コロナウイルス感染拡大の えいきやう けんしゅうさんか 影響により、研修参加 じぎょうしよすう げんしやう 事業所数が減少してしま が、れいわ ねんど いこう もくひょう 令和5年度以降は、目標で ある 30 か所の参加を目指しま す。 けんしゅう おこな じぎょうしよすう 【研修を行った事業所数】 れいわ ねんど しよ 令和3年度:4か所 れいわ ねんど しよ 令和4年度:6か所 れいわ ねんど しよ みこ 令和5年度:30か所(見込み)	○	すいしん 推進
しょうがいじにゆうしよ 障害児入所 しせつ 施設におけ る入所児童 の地域移行 ⑧	しせつにゆうしよじどう 施設入所児童のうち、18 さい どうたつ じどう 歳に到達する児童につい て、グループホーム等への にゆうきよ ちいきいこう 入居による地域移行を すいしん 推進します。	-	-	-	すいしん 推進

指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
しょうがいじそくだん 障害児相談 (じぎょうしやすう ねん 事業所数/年、 じゆきゆうしやすう がくれい 受給者数(学齢)/ がつ じゆきゆうしやすう 月、受給者数 (みしゅうがく ねん 未就学)/年) ㊦	135か所	147か所	160か所	170か所	180か所	190か所
	じっせき 実績 108か所	じっせき 実績 115か所	じっせき 実績 120か所 (じっせき み こ 実績見込み)			
	がくれい 学齢 6,600人	がくれい 学齢 7,275人	がくれい 学齢 8,025人	がくれい 学齢 8,675人	がくれい 学齢 9,365人	がくれい 学齢 10,110人
	じっせき 実績 836人	じっせき 実績 980人	じっせき 実績 1,148人 (じっせき み こ 実績見込み)	にん 人	にん 人	にん 人
	みしゅうがく 未就学 2,850人	みしゅうがく 未就学 3,000人	みしゅうがく 未就学 3,150人	みしゅうがく 未就学 3,275人	みしゅうがく 未就学 3,400人	みしゅうがく 未就学 3,535人
	じっせき 実績 2,690人	じっせき 実績 2,599人	じっせき 実績 2,638人 (じっせき み こ 実績見込み)	にん 人	にん 人	にん 人
パARENTトレーニン グ実施者養成研修 (じぎょうしやすう ねん 事業所数/年) ㊦	15か所	30か所	30か所	30か所	30か所	30か所
	じっせき 実績 4か所	じっせき 実績 6か所	じっせき 実績 30か所 (じっせき み こ 実績見込み)			
パARENTトレーニン グやパARENTプロ グラム等の支援プロ グラム等の 実施者数・受講者数 (新)				じっししやすう 実施者数: 30か所	じっししやすう 実施者数: 30か所	じっししやすう 実施者数: 30か所
				じゆこうしやすう 受講者数: 450人	じゆこうしやすう 受講者数: 450人	じゆこうしやすう 受講者数: 450人
パARENTメンターの 人数 (新)				ほんし じっししゆほうとう けんとう 本市における実施手法等の検討 おこな ちいき じつじょうとう を行っただうえで、地域の実情等 をもとに せってい を設定します。		
ピアサポートの活動 への参加人数 (新)				ほんし じっししゆほうとう けんとう 本市における実施手法等の検討 おこな ちいき じつじょうとう を行っただうえで、地域の実情等 をもとに せってい を設定します。		

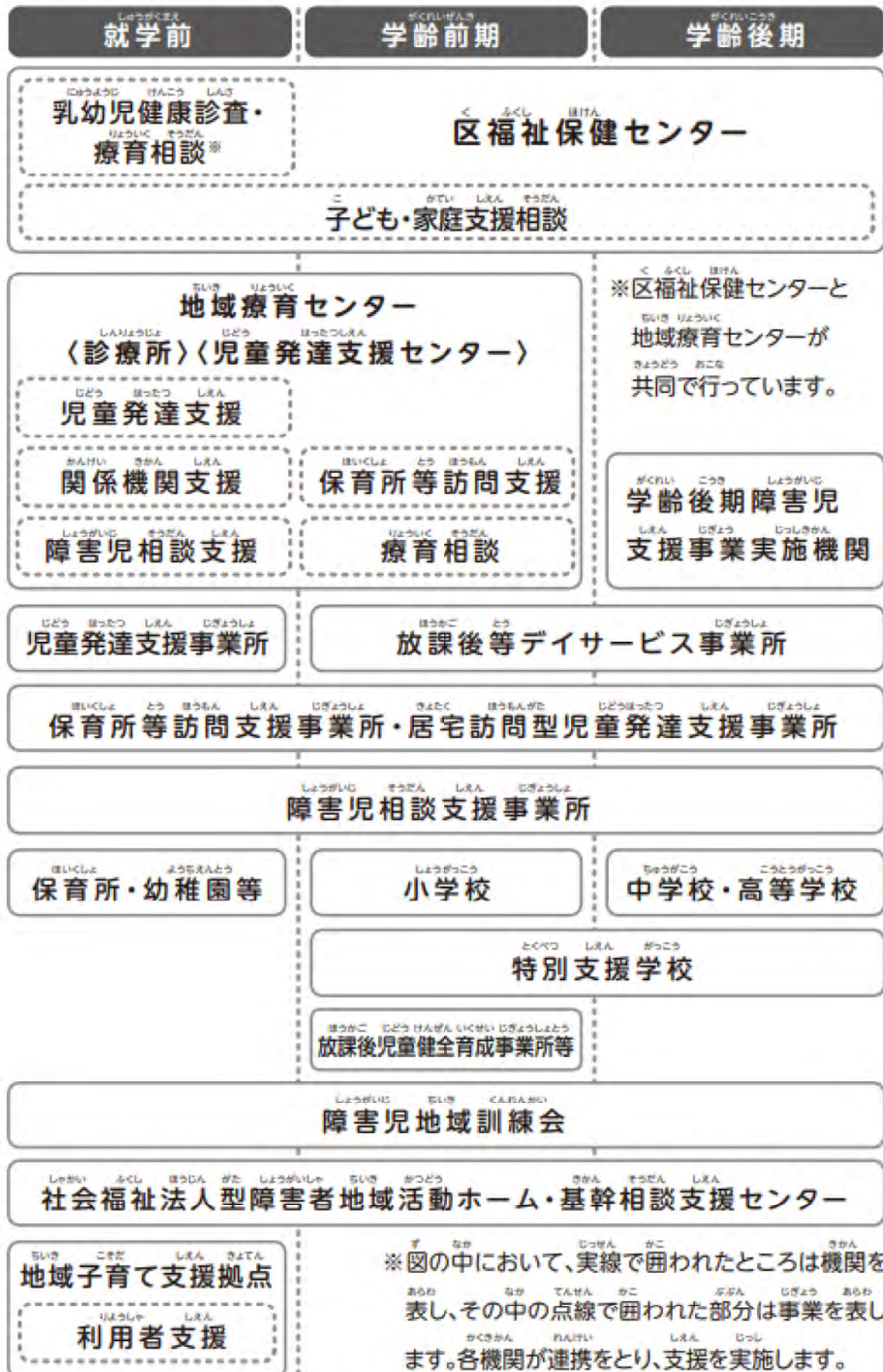
がくれいしょうがいじ たい しえん じゅうじつ
(3) 学齢障害児に対する支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふりかえり 振り返り	ひょうか 評価	
がくれいこうき 学齢後期 しょうがいじしえん 障害児支援 じぎょう 事業	がくれいこうき ちゅうがくせい こうこうせい 学齢後期(中学生・高校生 ねんだい はったつしょうがいじどう あんてい 年代)の発達障害児等が安定 した成人期を迎えられるよう、 じどう かぞくどう そうだん 児童や家族等からの相談に せんもんてき しょう じよげん おこな 専門的な指導、助言を行いま す。 また、かんけいきかん れんけい はったつ また、関係機関と連携し、発達 しょうがい きいん もんだい かいけつ 障害に起因する問題の解決に む しえん おこな 向けた支援を行います。	4か所	がくれいこうき ちゅうがくせい 学齢後期(中学生・ こうこうせいねんだい はったつ 高校生年代)の発達 しょうがいじ かぞくどう 障害児や家族等からの しょうだん せんもんてき じどう 相談に専門的な指導、 じよげん おこな 助言を行いました。 また、かんけいきかん れんけい また、関係機関と連携 はったつしょうがい きいん し、発達障害に起因す もんだい かいけつ む る問題の解決に向けた しえん おこな 支援を行います。4か しよめ じぎょうしよかいせつ 所目の事業所開設をは たいせいきょうか じめとする体制強化に む がくしきけいけんしゃどう 向けて、学識経験者等 まじ けんとうかいぎどう を交えた検討会議等を かいさい 開催しました。	○	4か所

しひょうめい 指標名	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
こども こそだ しえん 子ども・子育て支援 とう ほいくしよ ほうかご 等(保育所、放課後 じどうけんぜんいくせい 児童健全育成 じぎょうしよとう 事業所等)における しょうがいじ うけい 障害児の受入れ たいせい せいび 体制の整備 ㊟	すいしん 推進	すいしん 推進	すいしん 推進	すいしん 推進	すいしん 推進	すいしん 推進
ほうかごとう 放課後等デイサー ビス事業(事業所数 ねん じゆきゆうしやすう つき /年、受給者数/月、 の りようにつすう ねん 延べ利用日数/年) ㊟	410 か所	460 か所	510 か所	570 か所	630 か所	700 か所
	じっせき 実績	じっせき 実績	504 か所 (実績見込み)			
	418 か所	470 か所	10,700 人	11,400 人	12,600 人	14,000 人
	8,800 人	9,700 人	10,661 人 (実績見込み)			
	8,833 人	9,886 人	1,440,500 人日	1,568,700 人日	1,740,200 人日	1,931,600 人日
	1,128,000 人日	1,274,700 人日	1,372,980 人日 (実績見込み)			
1,128,471 人日	1,258,671 人日					

しひよつめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
ほうかごとう 放課後等デイサービ ス事業のうち、主に じゅうしょうしんしんしょうがいじ 重症心身障害児を しえん じぎょうしよ 支援する事業所 (事業所数/年、 じゅきゅうしゃすう つき の 受給者数/月、延べ りょうにつすう ねん 利用口数/年) ㊦	22か所	23か所	24か所	25か所	26か所	27か所
	じっせき 実績 20か所	じっせき 実績 24か所	26か所 (じっせきみこ 実績見込み)			
	396人	414人	432人	460人	490人	520人
	じっせき 実績 341人	じっせき 実績 376人	403人 (じっせきみこ 実績見込み)			
	31,680 人日	33,120 人日	34,560 人日	37,630 人日	40,970 人日	44,610 人日
	じっせき 実績 25,049 人日	じっせき 実績 27,756 人日	30,755 人日 (じっせきみこ 実績見込み)			
ほうかごとう 放課後等デイサービス 事業のうち、主に じゅうしょうしんしんしょうがいじ 重症心身障害児を しえん じぎょうしよ 支援する事業所のあ る区の割合 (/年) ㊦	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %
	じっせき 実績 72 %	じっせき 実績 78 %	78 % (じっせきみこ 実績見込み)			
はつたつしょうがいしえん 発達障害者支援セン ターによる相談件数 (学齢後期障害児支援 じぎょうぶん 事業分) (延べ相談件数/年) ㊦	6,000件	6,000件	7,200件	8,000 件	8,500 件	9,000 件
	じっせき 実績 7,190件	じっせき 実績 6,102件	7,200件 (じっせきみこ 実績見込み)			
はつたつしょうがいしえん 発達障害者支援セン ター及び発達障害者 ちいきしえん 地域支援マネジャー のがいびきかん ちいき の外部機関や地域 じゅうみん けんしゅう けいはつ 住民への研修、啓発 (学齢後期障害児 しえんじぎょうぶん けんすう 支援事業分)(件数/ ねん 年) ㊦	25件	25件	30件	30件	35件	35件
	じっせき 実績 13件	じっせき 実績 9件	30件 (じっせきみこ 実績見込み)			

● 障害児の療育関連事業





きょういく
3-2 教育

りょういく きょういく れんけい き め しえん
(1)療育と教育の連携による切れ目のない支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かけ 振り返り	ひょうか 評価	
よこはまがた 横浜型セン ターの機能 の充実	ちいきりょういく とくべつ 地域療育センターや特別 しえんがっこう つうきゅうしどうきょうしつどう 支援学校、通級指導教室等 の担当者が、小・中学校や たんどうしゃ しょう ちゅうがっこう 児童生徒、保護者からの相談 じどうせいと ほごしゃ しょうだん に対応するなど、特別な支援 たいおう とくべつ しえん が必要な児童生徒を支援し ひつよう じどうせいと しえん ます。	すいしん 推進	とくべつしえんきょういく こうないしえん 特別支援教育の校内支援 たいせい じゅうじつ 体制を充実させるため、 センター的機能のパンフレ てききのう ットをまとめ、市立学校に しりつがっこう 周知・啓発を図りました。 しゅうち けいはつ はか 【横浜型センター的機能に よこはまがた てききのう よる学校支援】 がっこうしえん 令和3年度:1,654件 れいわ ねんど けん 令和4年度:1,932件 れいわ ねんど けん	○	すいしん 推進
しゅうがくせつめいかい 就学説明会	とくべつしえんきょういく きぼう 特別支援教育を希望する ようじ しゅうがく かん せつめいかい 幼児の就学に関する説明会 かいさい を開催します。	すいしん 推進	れいわ ねんど しゅうがくせつめい 令和4年度は就学説明の どうがおよ しりょう 動画及び資料をホームペ ージに掲載したうえで、 しゅうごうがた せつめいかい 集合型による説明会を かいじつし 2回実施しました。 れいわ ねんど 令和5年度はホームページ どうがおよ しりょう けいさい に動画及び資料を掲載し たほか、集合型の説明会 しゅうごうがた せつめいかい を1回実施しました。(令和 かいじつし れいわ 3年度は新型 ねんど しんがた コロナウイルス感染症の かんせんしんじょう 感染防止のため中止) かんせんぼうし ちゅうし	○	すいしん 推進
しゅうがく きょういく 就学・教育 相談の体制 の強化	ひとり 一人ひとりの教育ニーズを てきかく はあく じんそく てきせい 的確に把握し、迅速で適正な しゅうがく きょういく 就学・教育相談を行うため かんけいきかん そうご れんけい に關係機関が相互に連携し ながら、就学前から卒業後ま しゅうがくまえ そつぎょうご で見通した相談体制の みとお そうだんたいせい 強化を図ります。 きょうか はか	すいしん 推進	しゅうがく きょういくそうだんけんすう 【就学・教育相談件数】 れいわ ねんど けん 令和3年度:5,026件 れいわ ねんど けん 令和4年度:5,004件 れいわ ねんど けん 令和5年度:5,000件 (見込み)	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
ほごしゃきょうしつ かいさいじぎょう 保護者教室 開催事業	よこはましりつしょう ちゅうがっこう とくべつしえん 横浜市立小・中学校、特別支援 がっこう ほごしゃ たいしょう 学校の保護者を対象とした しょうがい たい ただ ちしき 障害に対する正しい知識の けいはつ すす 啓発を進めます。	すいしん 推進	ほごしゃきょうしつかいさいかいすう 【保護者教室開催回数 さんかにんずう (参加人数)】 れいわ ねんど かい やく 令和3年度：1回(約 にんさんか 280人参加) れいわ ねんど かい やく 令和4年度：6回(約 にんさんか 1,200人参加) れいわ ねんど かい やく 令和5年度：7回 (1,400人)(見込み)	○	すいしん 推進
しりつようちえん とうとくべつしえん きょういくほほじょ 私立幼稚園 等特別支援 教育費補助 事業	しりつようちえんとう ざいえん 私立幼稚園等に在園している しょうがいじ たい きょういく しょうがい 障害児に対する教育が、障害 しゅるい ていど おう てきせつ の種類・程度などに応じて適切 おこな に行われるよう、その経費の いちが せつちしゃ ほじょ しょうがいじ 一部を設置者に補助し、障害児 きょういく やくだ の教育に役立ってます。	すいしん 推進	しがくじよせいえん げんしょう 私学助成園は減少して いるため補助対象人数 ほじょたいしょうにんずう も減少していますが、1 げんしょう 園当たりの対象園児数 えん あ たいしょうえん じすう は増加しています。 れいわ ねんど じん ・令和3年度：578人 せんえん 115,600千円 れいわ ねんど じん ・令和4年度：574人 せんえん 114,800千円 れいわ ねんど じん ・令和5年度：432人 せんえん みこ 86,400千円(見込み)	○	すいしん 推進



きょういくかんきょう きょういくかつどう じゅうじつ
(2)教育環境・教育活動の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
あいしーてー ICTを かつよう 活用した きょういくかんきょう 教育環境の じゅうじつ 充実	こ こ じどうせいと しょうがい 個々の児童生徒の障害の じょうきょう じゅうばん ふ 状況を十分に踏まえ、 がくしゅうじょう せいかつじょう さまざま 学習上、生活上の様々な こんなん たい あいしーてー かつよう 困難に対し、ICTを活用し たしどう や しえん じゅうじつ た指導や支援を充実させると とも、きんきゅうじ 緊急時におけるオンラ いんでのがくしゅうほしょう どうが 学習保障や動画コン テンツはいしん 配信などについて、 けんとう じっし 検討、実施します。	じっし 実施	しりつとくべつ しえんがっこう 市立特別支援学校13 こう あいしーてー しえんいん 校に、ICT支援員 はけん がくしゅうしえんどう を派遣し、学習支援等 にとく に取り組みました。 あいしーてー しえんいん 【ICT支援員の はけんかいすう 派遣回数】 れいわ ねんど かい 令和3年度:48回 れいわ ねんど かい 令和4年度:62回 れいわ ねんど かい 令和5年度:62回 みこ (見込み)	○	すいしん 推進
しょうがいとくせい 障害特性に おう きょういく 応じた教育 じゅうじつ の充実	こべつ しえんがつきゅう くわ いっぱん 個別支援学級に加えて、一般 がつきゅう においても、とくべつ しえん 学級においても、特別な支援 をよ じどうせいと ぞうか を要する児童生徒が増加し、 しえん 支援のニーズが多様化してい るじょうきょう ふ 状況を踏まえ、ケーススタ ディをじゅうし けんしゅう じゅうじつ 重視した研修を充実さ すべ せま。すべての教員が障害の じょうたい とくせい おう しどう 状態や特性に応じた指導・ しえん おこな せんもんせい 支援が行えるよう専門性の こうじょう ほか 向上を図ります。 また、しょう ちゅうがっこう きょういん 小・中学校の教員が とくべつ しえんがっこうきょうゆめんきょじょう 特別支援学校教諭免許状を しゅとく じゅうこうりょうじょせい 取得するための受講料助成 じぎょう あら じっし 事業を新たに実施します。	じっし 実施	けいけんねんすう や テーマ別 にべつ 経験年数やテーマ別に おう けんしゅう おこな 応じた研修を行いま した。とくべつ しえんがっこう 特別支援学校 きょうゆめんきょじょうしゅとく 教諭免許状取得のた めじゅうこうりょうじょせい の受講料助成は、 しんせいしやすべ こうふ 申請者全てに交付しま した。	○	じっし 実施



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひよう 目標
		もくひよう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
とくべつしえんきょういく 特別支援教育 コーディネーターの機能強化とスキルアップ	とくべつしえんきょういく 特別支援教育コーディネーター養成研修を受講して活動している特別支援教育コーディネーター(教員)を対象に、更なるスキルアップを目指して、事例研究などを中心とした研修を進めるとともに、関係機関との連携を強化し、専門的な資質を高めます。	すいしん 推進	とくべつしえんきょういく 【特別支援教育コーディネーター養成研修修了者数】 れいわ ねんど 282にん 令和3年度:282人 れいわ ねんど 309にん 令和4年度:309人 れいわ ねんど 330にん 令和5年度:330人(見込み) 【スキルアップ研修実施回数】 れいわ ねんど 10かい 令和3年度:10回 れいわ ねんど 12かい 令和4年度:12回 れいわ ねんど 12かい 令和5年度:12回(見込み) 【ブラッシュアップ研修実施回数】 れいわ ねんど 2かい 令和3年度:2回 れいわ ねんど 5かい 令和4年度:5回 れいわ ねんど 8かい 令和5年度:8回(見込み) 【リラーニング研修実施回数】 れいわ ねんど 8かい 令和4年度:8回 れいわ ねんど 7かい 令和5年度:7回(見込み) 上記に加え、チーフコーディネーター会議等において研修・情報共有・事例検討を行いました。	○	すいしん 推進
とくべつしえんきょういく 特別支援教育支援員事業	しょう ちゅう ぎ むきょういくがっこう 小・中・義務教育学校で障害により学習面、生活面や安全面への配慮等が必要な児童生徒に特別支援教育支援員を配置し、校内支援体制の充実を図ります。	はいち 配置	しょう ちゅうがっこう 小・中学校において、障害等により学習面や生活面、安全面への支援が必要な児童生徒に対し、特別支援教育支援員を配置しました。	○	はいち 配置



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
ちようかくしょうがいじ 聴覚障害児 しえんじぎょう 支援事業	しょう ちゅう ぎ む きょういくがっこう ざいせき 小・中・義務教育学校に在籍 する聴覚障害のある児童 せいと 生徒にノートテイクによる じょうほう ほしょう じっし 情報の保障を実施します。	じっし 実施	れいわ ねんど しょう ちゅうがっこう 令和4年度は小・中学校で ちようかくしょうがい じゅぎょうとう 聴覚障害があり、授業等 ばめん しえん ひつよう の場面での支援が必要な じどうせいと たい 児童生徒に対しボランティ アを725回派遣しました。	○	じっし 実施
じゆんかいがたしどう 巡回型指導 のじっし 実施によ るつうきゅうしどう 通級指導 のじゅうじつ 充実	じどうせいと ざいせきこう じゆんかい 児童生徒の在籍校を巡回して しどう おこな きょうどうがたじゆんかい 指導を行う「協働型巡回 しどう じっし つうきゅうしどう 指導」を実施します。通級指導 たんとうきょういん ざいせきこう ほうもん の担当教員が在籍校を訪問 し、児童生徒の指導や授業 さんかん おこな がっきゅう 参観を行うとともに、学級 たんになんとう にちじょうてき じょうほう 担任等と日常的に情報を きょうゆう きょうどう がっこう 共有するなど、協働して学校 せいかつ しえん 生活を支援します。	じっし 実施	じょうしよしょうがい えーでいえいちでいつうきゅう 情緒障害・ADHD通級 しどうきょうしつ せっち 指導教室を設置する しょうがっこうぜんこう 12こう 小学校全校(12校)で、 きょうどうがたじゆんかいしどう かいし 協働型巡回指導を開始し ました。	○	じっし 実施
いりようてき 医療的ケア たいせい じゅうじつ 体制の充実	しょう ちゅう ぎ む きょういくがっこう とくべつ 小・中・義務教育学校や特別 しえんがっこう いるりようてき 支援学校における医療的ケア のじっしたいせい じゅうじつ の実施体制を充実させます。 とくべつしえんがっこう 特別支援学校においては、 じんこうこきゅうきとうこうど いるりようてき 人工呼吸器等高度な医療的ケ アにも対応できるよう、体制の きょうか はか 強化を図ります。	せいび 整備	しょう ちゅうがっこうとう かんごし 小・中学校等では、看護師 によるケアを必要とする児 どうせいと すべ たい かんごし 童生徒全てに対して看護師 を派遣しました。 また、とくべつしえんがっこう し 特別支援学校では、肢 たいふ じゅうとくべつしえんがっこう 6こう 体不自由特別支援学校6校 に看護師をはいち いるりようてき 配置し、医療的 ケアをともな じどうせいと を伴う児童生徒が あんしん あんぜん きょういく う 安心・安全に教育を受けら れるかんきょう せいび れる環境を整備しました。 ひ つづ じんこうこきゅうきとう 引き続き、人工呼吸器等の こうど いるりようてき 高度な医療的ケアにも対応 し、ほごしゃ つ そ かいしよう し、保護者の付き添い解消 とく に取り組みます。	○	せいび 整備



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かい 振り返り	ひょうか 評価	
とくべつしえんがっこう 特別支援学校 の充実	ざいせきじどうせいと しょうがい 在籍児童生徒の障害の たようか じゅうどか ちょうふか ぶ 多様化・重度化・重複化を踏 まえ、きょういくかてい じゅうじつ しせつ まえ、教育課程の充実、施設 せつび かいしゅう ぶくししゃりよう 設備の改修や、福祉車両の かつよう つうがくしえん あら 活用など通学支援の新たな ほうさく けんとう しこう きょういく 方策の検討・試行など教育 かんきょう じゅうじつ とくく 環境の充実に取り組みま す。	すいしん 推進	したいふ じゅうどくべつしえんがっこう 肢体不自由特別支援学校 こう はいち かんごし 6校に配置する看護師に ついて、ねんどから ぶくし 5年度から福祉 しゃりよう じょうしゃ ぎょうむ 車両への乗車も業務とす る雇用枠を新設し、既存枠 と合わせて40名体制に かくじゅう つうがくしえん 拡充しました。通学支援も まいねんど ていとぞうしゃ 毎年度6コース程度増車し ました。	○	すいしん 推進
じゅうどほうもんかいご 重度訪問介護 利用者の大学 しゅうがくしえん 修学支援 じぎょう 事業	じゅうどほうもんかいご りよう 重度訪問介護を利用する じゅうどしょうがいしゃ だいがく しゅうがく 重度障害者が大学で修学す るための支援を実施します。	すいしん 推進	だいがく つうがくちゅう 大学への通学中および だいがく しきちない 大学の敷地内における しんたいかいごとう じっし 身体介護等を実施しまし た。 【利用者数】 れいわ ねんど にん 令和3年度:3人 れいわ ねんど にん 令和4年度:4人 れいわ ねんど にん みこ 令和5年度:4人(見込み)	○	すいしん 推進

きょういく しゅうろう しえん
(3)教育から就労への支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふりかえり 振り返り	ひょうか 評価	
とくべつしえん 特別支援 がっこうしゅうろう 学校就労 しえんじぎょう 支援事業	しょうがいしゃしゅうろうしえん どう 障害者就労支援センター等 かんけいきかん れんけい せいと 関係機関と連携しながら、生徒 の就労を支援します。 また、じっしゅうさきかいたく しょくばていちゃく また、実習先開拓や職場定着 支援のため、こうとうとくべつしえんがっこう 支援のため、高等特別支援学校 (わかばだいとくべつしえんがっこうちてきしょうがい (若葉台特別支援学校知的障 害 きょういくがもん かく しゅうろうしえん 教育部門を含む)に就労支援 しどういん はいち 指導員を配置します。	すいしん 推進	こうとうとくべつしえんがっこう 高等特別支援学校 ひのちゅうおう ふたばし (日野中央、二つ橋、 わかばだいちてきしょうがい 若葉台知的障 害 がもん かく 部門)の3校に1人ずつ しゅうろうしえんしどういん はいち 就労支援指導員を配置 し、各校における じっしゅうさきかいたく しょくば 実習先開拓や職場 ていちゃくしえん きよ 定着支援に寄与しまし た。	○	すいしん 推進
とくべつしえん 特別支援 がっこうしんろ 学校進路 たんとくかん 担当間の れんけいきょうか 連携強化	しりつとくべつしえんがっこう しんろ 市立特別支援学校の進路 たんとくしや しょうがいしゅべつ こ 担当者が障害種別を超えて ていきてき じょうほうこうかん じれいけんきゅう 定期的に情報交換や事例研究 をおこな しばひろ しんろせんたく を行い、幅広い進路選択に たいおう れんけい きょうか 対応できるよう連携を強化しま す。	すいしん 推進	しりつとくべつしえんがっこう 市立特別支援学校の しんろたんとくしや じょうほうこうかん 進路担当者の情報交換 じれいけんきゅう ねんかん かい や事例研究を年間3回 ていどじっし しばひろ しん 程度実施し、幅広い進 ろせんたく たいおう 路選択に対応できるよ うにしました。	○	すいしん 推進

生活の場面4 働く・楽しむ

4-1 就労

(1) 一般就労の促進と雇用後の定着支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
しゅうろうしえん 就労支援セ ンターを ちゅうしん 中心とし た、ちいき 地域にお けるしゅう ろう しえん 支援ネットワ ークの構築	しょうがいしゃ しゅうろう ささ 障害者の就労を支える かんけいきかん とくべつしえんがっこう 関係機関(特別支援学校、 しゅうろういこうしえんじぎょうしょ 就労移行支援事業所、ハ ローワーク等)とのれんけい 連携・ きょうりょくたいせい こうちく 協力体制を構築します。 しゅうろう けいぞく か 就労の継続に欠かせない せいかつめん 生活面でのサポートを じゅうじつ 充実させるため、ちいき 地域の かんけいきかん れんけい ほんにん 関係機関と連携し、本人へ のしえん えんかつ すす 支援を円滑に進めます。	すいしん 推進	しゅうろうしえん およ しゅうろう 就労支援センター及び就労 いこうしえんじぎょうしょ きょうりょく 移行支援事業所と協力し、 けんしゅうかい れんらくかい かいさい 研修会や連絡会を開催するな ど、ちいき かんけいきかん 地域の関係機関による れんけいたいせい こうちく と く 連携体制の構築に取り組みま した。 また、きょういく ろうどう かくばんや 教育・労働の各分野にお いても、しょうがいしゃしゅうろう かん 障害者就労に関する べんきょうかいとう つう れんけいきょう か 勉強会等を通じた連携強化 にとり組みました。 とく とくべつしえんがっこう 特に、特別支援学校について は、かくばんや べんきょうかい くわ 各分野の勉強会に加え、 いけんこうかんかい じっし 意見交換会を実施するなど、 しゅうろうしえん こうちく 就労支援ネットワークの構築 む け と く すいしん に向けた取り組みを推進しま した。	○	すいしん 推進
しゅうろうしえん 就労支援セ ンター職員 のじんざいいくせい 【再掲】	たよう しゅうろう たいおう 多様な就労ニーズに対応 できるよう、しゅうろうしえん 就労支援ス キルをこうじょう 向上させるため、 けんしゅう じっし じんざい 研修の実施など、人材 いっせい すす 育成を進めます。	すいしん 推進	れいわ ねんど じんざいいくせい 令和3年度に人材育成シート のさくせい なら れいわ ねんど 作成、並びに令和4年度に こじんじょうほうほご けんしゅう ろうどうほう 個人情報保護研修、労働法 けんしゅう およ かく かん 研修、及び各センター間での しえんいん じんじこうりゅう じっし 支援員の人事交流を実施し、 しよくいん しえん こうじょう 職員の支援スキルの向上を はか 図りました。	○	すいしん 推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひよう 目標
		もくひよう 目標	ふ かい 振り返り	ひようか 評価	
しゅうろうそくしん 就労促進を もくてき 目的とした じぎょうしよしよくいん 事業所職員 む けんしゅう 向け研修 さいけい 【再掲】	しょうがいしやくよう おこな きぎょう 障害者雇用を行っている企業 での「就業体験」の研修を通じ て、事業所職員の就労支援ス キルの向上、就労に向けた いしきづ 意識付けにつなげます。	すいしん 推進	れいわ ねんど じぎょうしよ 令和3年度に事業所 職員向けに「働く 職場の見学会」を実施 し、事業所職員の意 識付けに取り組みまし た。 れいわ ねんど 令和4年度には、より 効果的な実施に向け た関係機関へのヒアリ ングを行い、令和5年 度にヒアリングを踏ま え、新たな事業を実施 しました。	○	すいしん 推進
こようしさく 雇用施策と ふくししさく 福祉施策の れんけい 連携による じゅうどしょうがいしや 重度障害者 どう しゅうろう 等への就労 しえん 支援 じゅうど (重度 しょうがいしやどう 障害者等 しゅうろうしえん 就労支援 とくべつじぎょう 特別事業)	ほうてい たいしやうがい 法定サービスでの対象外とな っている重度障害者の経済 かつどうじかんちゆう しえん こようしさく 活動時間中の支援を雇用施策 と福祉施策が連携して行う せいど けんどう じっし 制度を検討し、実施します。	けんどう 検討・ じっし 実施	せいどこうちく む けん 制度構築に向けた検 討を重ね、令和5年度 から「横浜市重度 障害者等就労支援 とくべつじぎょう じっし 特別事業」を実施しま す。	○	じっし 実施

指標名	令和3 ねんど 年度	令和4 ねんど 年度	令和5 ねんど 年度	令和6 ねんど 年度	令和7 ねんど 年度	令和8 ねんど 年度
福祉施設から一般 就労への移行者数 福	460人	498人	536人	801人	843人	885人
	実績 675人	実績 764人	759人 (実績見込み)			
就労移行支援事業 の利用者数 福	1,476 にんが ん人分	1,547 にんが ん人分	1,617 にんが ん人分	1,688 にんが ん人分	1,759 にんが ん人分	1,830 にんが ん人分
	実績 1,508 にんが ん人分	実績 1,561 にんが ん人分	1,545 にんが ん人分 (実績見込み)			
就労移行支援の 利用者のうち就労 移行率が3割以上の 事業所の割合 福	34.2 %	42.1 %	50.0 %	54 %	58 %	62 %
	実績 39 %	実績 45 %	50 % (実績見込み)			
就労移行支援事業 利用終了者に占め る一般就労へ移行し た者の割合が5割以 上の事業所の割合 福新	-	-	-	50 %	50 %	50 %
就労定着支援 の利用者数 福	1,070 にん 人	1,190 にん 人	1,397 にん 人	1,728 にん 人	2,028 にん 人	2,272 にん 人
	実績 672 にん 人	実績 939 にん 人	958 にん 人 (実績見込み)			



はばひろ しごと こうちん こうじょう せいかつ じゅうじつ
(2)幅広い仕事や工賃の向上による生活の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき(令和3~5年度) 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふりかえり 振り返り	ひょうか 評価	
きょうどうじゅちゅう 共同受注セ ンター等に よる受注 そくしん 促進	きぎょう ぎょうせいきかん じぎょうしょ 企業・行政機関から、事業所 の特性を生かした幅広い 仕事の受注ができるよう、コ ーディネートを行います。 市内イベント等への出店や 自主製品の紹介等を通じ、 販路を拡大するとともに、 障害者就労への理解促進を 図ります。	すいしん 推進	きょうどうじゅちゅう 共同受注センターによる 受注促進に加え、企業等での 社内販売や大学での販売会の 開催等を通じて、障害者就労 への理解促進を進めました。 【共同受注センターによる 受注金額(件数)】 令和3年度: 59,408,368円(341件) 令和4年度: 54,826,300円(327件)	○	すいしん 推進
じぎょうしょ 事業所の 受注スキル の向上	はつちゅうしゃがわ 発注者側のニーズに応えら れる商品の開発や作業の 受注ができるよう、研修会 やモデルケースとなる事例 検討などを実施し、事業所の 受注スキルの向上を図り、 多くの受注につなげます。	すいしん 推進	がっこう プール清掃等、各事業所 で取り組みやすい、また今後も 需要が見込まれる内容をモデ ルケースとして検討し、事業所 を対象とした研修を実施しま した。	○	すいしん 推進
ゆうせんちやうたつ 優先調達の すいしん 推進	よこはましやくしょ 横浜市役所からの事業所へ の優先的な発注を更に推進 します。 また、庁内LANなどを活用 し、区局等の発注事例を広く 周知し、新たな発注につなげ ます。	すいしん 推進	ほんししよくいんせんよう 本市職員専用のポータルサイ ト上で優先調達事例を掲載し たほか、会議等を活用した 庁内周知を行い、優先調達 の推進を図りました。 【優先調達実績】 令和3年度: 4億749万3,249円 令和4年度: 4億3,109万6,188円	○	すいしん 推進

(3) 多様な働き方や障害者就労に対する理解促進

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			目標
		目標	振り返り	評価	
障害者就労に関する市民啓発	シンポジウムの開催等を通じて、様々な分野で働く障害者や障害者雇用を進めている企業の「生の声」を伝え、障害者就労に対する理解・関心を高めます。	推進	【シンポジウム参加者数】 令和3年度:開催見送り 令和4年度:会場77名、YouTube再生回数:336回 【パネル展開催】 令和3年度:1回 令和4年度:2回 令和5年度:2回(見込み)	○	推進
障害者雇用に関する企業啓発	障害者雇用を検討している企業に向けて、雇用に関するセミナー等を実施し、合理的配慮の必要性など企業内での障害理解の促進を図ります。	推進	経営者団体等からの依頼を受け、出前講座の内容を調整・実施しました。 【出前講座回数】 令和3年度:3回(9社) 令和4年度:9回(30社) 令和5年度:3回(30社)(見込み)	○	推進
ふれあいシヨップ等を活用した障害者就労に関する理解促進	新たに開業する JR 関内駅北口高架下の就労啓発施設及び市庁舎内のふれあいシヨップをはじめ、既存のふれあいシヨップ等の運営を通じて、就労に関する理解の促進を図ります。	推進	令和3年度:新型コロナウイルス感染症の状況に留意しながら一部店舗のヒアリングを実施しました。 令和4年度:各店舗へのヒアリングを行いました。 令和5年度:JR 関内駅北口高架下の就労啓発施設及びふれあいシヨップ等と連携を図りながら、就労啓発に関する発信強化に取り組めます。	○	推進



にっちゅうかつどう
4-2 日中活動

にっちゅうかつどう ばしょ せんたくし じゅうじつ
(1) 日中活動場所の選択肢の充実

しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
せいかつかいご 生活介護(／月)福	7,732 にんぶん 人分	7,982 にんぶん 人分	8,232 にんぶん 人分	8,482 にんぶん 人分	8,732 にんぶん 人分	8,982 にんぶん 人分
	じっせき 実績	じっせき 実績	8,615 にんぶん 人分			
	8,362 にんぶん 人分	8,526 にんぶん 人分	(実績見込み)	141,361 にん 人日	145,531 にん 人日	149,700 にん 人日
	128,853 にんにち 人日	133,022 にんにち 人日	137,192 にんにち 人日			
139,854 にんにち 人日	140,753 にんにち 人日	146,501 にんにち 人日 (実績見込み)				
せいかつかいご 生活介護 (重度障害者 *3) (／月)福新	-	-	-	3,749 にんぶん 人分	3,887 にんぶん 人分	4,025 にんぶん 人分
じりつくねん きのうくねん 自立訓練(機能訓練) (／月)福	42人分	42人分	42人分	42人分	42人分	42人分
	じっせき 実績	じっせき 実績	41人分 にんぶん (実績見込み)			
	30人分	30人分	(実績見込み)	826 にんにち 人日	826 にんにち 人日	826 にんにち 人日
	826 にんにち 人日	826 にんにち 人日	826 にんにち 人日			
428人日	456人日	603 にんにち 人日 (実績見込み)				

*3…「重度障害者」とは、強度行動障害や高次脳機能障害を有する障害者、医療的ケアを必要とする者等を表しています。



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
じりつくねん せいかつくねん 自立訓練(生活訓練) (/月) 福	359人分	376人分	393人分	410 人分	427 人分	444 人分
	じっせき 実績 405人分	じっせき 実績 488人分	530人分 (実績見込み)			
	5,812 人日	6,088 人日	6,363 人日	6,638 人日	6,913 人日	7,189 人日
	じっせき 実績 6,666 人日	じっせき 実績 8,011 人日	8,757 人日 (実績見込み)			
じゅうろう いこう しえん じぎょう 就労 移行 支援 事業 (/月) 【再掲】 福	1,476 人分	1,547 人分	1,617 人分	1,688 人分	1,759 人分	1,830 人分
	じっせき 実績 1,508 人分	じっせき 実績 1,561 人分	1,545 人分 (実績見込み)			
	25,099 人日	26,303 人日	27,507 人日	28,711 人日	29,915 人日	31,119 人日
	じっせき 実績 26,726 人日	じっせき 実績 27,339 人日	27,420 人日 (実績見込み)			
じゅうろう けいぞく しえん じぎょう 就労 継続 支援 事業 (A型)(/月) 福	880人分	919人分	958人分	997 人分	1,035 人分	1,074 人分
	じっせき 実績 719人分	じっせき 実績 654人分	661人分 (実績見込み)			
	17,203 人日	17,962 人日	18,721 人日	19,480 人日	20,239 人日	20,999 人日
	じっせき 実績 13,674 人日	じっせき 実績 12,156 人日	12,580 人日 (実績見込み)			



しひょうめい 指標名	れいわ 令和3 ねんど 年度	れいわ 令和4 ねんど 年度	れいわ 令和5 ねんど 年度	れいわ 令和6 ねんど 年度	れいわ 令和7 ねんど 年度	れいわ 令和8 ねんど 年度
しゅうろうけいぞくしえんじぎょう 就労継続支援事業 びーがた(／月) 福	4,605 にんぶん 人分	4,857 にんぶん 人分	5,109 にんぶん 人分	5,361 にんぶん 人分	5,613 にんぶん 人分	5,866 にんぶん 人分
	じっせき 実績	じっせき 実績	5,285 にんぶん 人分			
	4,691 にんぶん 人分	5,145 にんぶん 人分	(実績見込み)	91,993 にんにち 人日	96,320 にんにち 人日	100,647 にんにち 人日
	79,012 にんにち 人日	83,339 にんにち 人日	87,666 にんにち 人日			
77,897 にんにち 人日	83,354 にんにち 人日	87,177 にんにち 人日 (実績見込み)				
しゅうろうせんたくしえん 就労選択支援 福 新	-	-	-	くに じぎょう しようさい しめ のち 国が事業の詳細を示した後、 ちいき じつじょうどう もと せってい 地域の実情等を基に設定しま す。		
ちいきかつどうしえん 地域活動支援センタ さぎょうしよがた 一作業所型 福	130か所 しよ	130か所 しよ	130か所 しよ	145か所 しよ	146か所 しよ	147か所 しよ
	じっせき 実績	じっせき 実績	137か所 しよ (実績見込み)			
	138か所 しよ	137か所 しよ	(実績見込み)	2,600 にん 人(／年)	2,600 にん 人(／年)	2,600 にん 人(／年)
	2,600人 にん (／年)	2,600人 にん (／年)	2,600人 にん (／年)			
2,894人 にん (／年)	2,868人 にん (／年)	2,861人 にん (／年) (実績見込み)				
ちゅうとしょうがいしゃちいき 中途障害者地域 かつどう 活動センター 福	18か所 しよ	18か所 しよ	18か所 しよ	18か所 しよ	18か所 しよ	18か所 しよ
	じっせき 実績	じっせき 実績	18か所 しよ (実績見込み)			
	18か所 しよ	18か所 しよ	(実績見込み)	517人 にん (／年)	517人 にん (／年)	517人 にん (／年)
	517人 にん (／年)	517人 にん (／年)	517人 にん (／年)			
479人 にん (／年)	455人 にん (／年)	517人 にん (／年) (実績見込み)				

4-3 スポーツ・文化芸術

(1) スポーツ活動の推進

事業名	事業内容	中間期(令和3~5年度)			目標
		目標	振り返り	評価	
障害者スポーツの啓発と理解の促進	東京2020パラリンピックにより高まる関心を障害者スポーツの普及啓発につなげるため、障害者スポーツ文化センターや横浜市スポーツ協会、地域の様々な団体等と連携し、障害者スポーツの裾野を広げる取組を行うとともに、障害者スポーツを通じた障害への理解促進を図ります。	推進	東京2020パラリンピックにより高まった障害者スポーツへの関心を普及啓発につなげるため、障害者スポーツ文化センターで、障害者スポーツの体験会や教室等を実施しました。	○	推進
身近な地域における障害者スポーツの推進	引き続き、障害者が身近な地域でスポーツに取り組めるよう、各区のスポーツセンターや中途障害者地域活動センター等と連携し、地域の人材育成を進めながら、障害者スポーツの推進を図ります。	推進	中途障害者地域活動センター、横浜市スポーツ協会等と連携し、障害のある人の身近な地域での障害者スポーツの取組を行いました。また、障害者スポーツの周知活動、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等の実施を通して、支援者・指導者の人材育成を進めました。	○	推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かえ 振り返り	ひょうか 評価	
インクルーシ ブスポーツ とう すいしん 等の推進(新)	し きょうかい しゃかいふくし 市スポーツ協会と社会福祉 ほうじんよこはまし 法人横浜市リハビリテーション じぎょうだん(ラポール)とのれんけい 事業団(ラポール)との連携 きょうてい ちと ちいき だれ たの 協定に基づき、地域で誰もが楽 しめるインクルーシブスポーツ をすいしん を推進します。	-	-	-	すいしん 推進
しょうがい 障害のある こ 子どもがス ポーツを楽 しむ機会・場 のじゅうじつ 充実(新)	しょうがい こ にゆうようじ 障害のある子どもが乳幼児か らがくれいき きめ ら学齢期まで切れ目なくスポー ツをたの き かい ていきよう ツを楽しむ機会を提供します。	-	-	-	すいしん 推進



ぶん かげいじゆつ かつどう すいしん
(2)文化芸術活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふりかえり 振り返り	ひょうか 評価	
しょうがいしゃ 障害者の ぶん かげいじゆつ 文化芸術 かつどう しえん 活動の支援	アートイベントの開催や、活動を支える人材の育成、様々な団体等と連携した文化芸術活動の場の創出に取り組みます。	すいしん 推進	しょうがいしゃ ぶんか 障害者スポーツ文化センターによる芸術祭や展覧会等を開催を通じて、活動を支える人材の育成や文化芸術活動の場の創出に取り組みました。 「ヨコハマ・パラトリエナーレ」のレガシーを地域に定着させるため、学校等でのプログラムの実践や福祉施設を対象とした体験プログラムの実施などの支援を行いました。	○	すいしん 推進
しょうがいしゃ 障害者の ぶん かげいじゆつ 文化芸術 かんしょう しえん 鑑賞の支援	様々な団体等と連携し、障害の特性に応じた鑑賞の機会の充実、円滑な施設利用のための環境整備、活動を支える人材の育成等に取り組みます。	すいしん 推進	よこはまのうがくどう 横浜能楽堂において、「バリアフリー能」及び関連企画の実施にあたり、関連団体等に事前ヒアリングを行ったほか、合理的配慮等に係る施設内研修を実施しました。	○	すいしん 推進
ぶん かげいじゆつ 文化芸術に ちいき よる地域 きょうせいしゃかい 共生社会 じつげん む 実現に向け とりくみ た取組の すいしん 推進	関係機関との連携を深め、文化芸術体験や公演・展示等鑑賞の文化芸術活動を通して、障害のあるなしにかかわらず誰もが互いに対等な立場で関わり合うことを進める活動を促進します。	すいしん 推進	しみんの 市民ギャラリーあざみ野で「フェローアートギャラリー」を実施したことに加え、本事業について青葉区民文化センターなどの他施設と連携しました。	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	ちゅうかんき れいわ ねんど 中間期(令和3~5年度)			もくひょう 目標
		もくひょう 目標	ふ かけ 振り返り	ひょうか 評価	
かしょう どくしよ (仮称)読書 バリアフリー 法に基づく よこはまし けいかく 横浜市 計画 の 策定、 すいしん 推進	どくしよ 読書バリアフリー法に基づ ちほうこうきょうだんたい けいかく く、地方公共団体の計画と して策定し、計画に基づ とりくみ すいしん 取組を推進します。	さくてい 策定・ すいしん 推進	しゃかいきょういっくいんかいぎ 社会教育委員会議におい て、視覚障害者等の読書 かんきょう せいび すいしん かん 環境の整備の推進に関す る法律(読書バリアフリー ほうりつ どくしよ 法)に基づく取組の方向性 ほう ちと とりくみ ほうこうせい を協議いただき、令和4年2 がつ ていげん う 月に提言を受けました。 また、提言を踏まえ、全学的 ていげん ふ ぜんしてき な読書活動の普及啓発イベ ント(令和4年3月開催)に れいわ ねん がつかいさい おいて、視覚障害者等が どりよう しょうせきとう しょうかい 利用しやすい書籍等を紹 介する講座やブース展示等 ことを しょうせきとう てんじとう を行い、市民の読書バリアフ ーの理解促進を図りまし た。 こんご れいわ ねんど さくてい 今後は、令和6年度に策定 よてい だいさんじよこはまし 予定の「第三次横浜市民 どくしよかつどうすいしんけいかく しゃかい 読書活動推進計画」に社会 きょういっくいんかいぎていげん ないよう 教育委員会議提言の内容 を盛り込み、取組を推進し ます。	△	すいしん 推進

(1) 障害者手帳所持者数

横浜市発行の各障害者手帳（身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）・精神障害者保健福祉手帳）令和4年度3月末時点での所持者数の合計は、約18万1千人（横浜市全体人口比で4.81パーセント）となっています。

平成29年度は、約16万3千人でしたので、現在までに、約1万8千人増加したということになります（増加率約10.9パーセント）。表1からも年々取得者数が伸びていることがわかります。

また、表2から見られるように、障害者手帳所持者数の増加率については、ここ数年は約2パーセント程度で推移しており、人口増加率よりも大きいことから、障害者手帳を所持する方の割合が増えてきているといえます。今後も高齢化の進展等ともあいまって、障害者手帳所持者数の割合は増えていくことが推測されます。

表1 横浜市人口と障害者手帳所持者数の比較

（各年度の3月末時点、ただし、横浜市人口のみ翌4月1日時点。以下同様）(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
よこはましじんこう 横浜市人口	3,731,706	3,741,317	3,753,771	3,775,319	3,768,363	3,768,664
しんたいしょうがいしゃ 身体障害者	99,361	99,515	99,732	99,455	98,829	97,869
ちてきしょうがいしゃ 知的障害者	29,409	30,822	32,281	33,553	34,859	36,283
せいしんしょうがいしゃ 精神障害者	34,578	36,901	39,232	40,854	43,767	46,975
てちようしよじしゃぜんたい 手帳所持者全体	163,348	167,238	171,245	173,862	177,455	181,127
よこはましじんこう 横浜市人口における しょうがいしゃてちようしよじしゃすう 障害者手帳所持者数 わりあい 割合	ばーせんと 4.38 %	ばーせんと 4.47 %	ばーせんと 4.56 %	ばーせんと 4.61 %	ばーせんと 4.71 %	ばーせんと 4.81 %

表2 横浜市人口と障害者手帳所持者の増加数の比較

(人)

	ねんど 29~30年度	ねんど 30~31年度	ねんど 31年度~ れいわ ねんど 令和2年度	れいわ 令和2~ ねんど 3年度	れいわ 令和3~ ねんど 4年度
よこはましじんこうぞうかすう 横浜市人口増加数	9,611	12,454	21,548	△6,956	301
ぞうかりつ (増加率)	ばーせんと 0.26 %	ばーせんと 0.33 %	ばーせんと 0.57 %	ばーせんと △0.18 %	ばーせんと 0.01 %
てちようしよじしゃ ぞうかすう 手帳所持者の増加数	3,890	4,007	2,617	3,593	3,672
ぞうかりつ (増加率)	ばーせんと 2.38 %	ばーせんと 2.4 %	ばーせんと 1.53 %	ばーせんと 2.07 %	ばーせんと 2.07 %

(2) 身体障害

身体障害者手帳の所持者数は、肢体不自由が最も多く、次いで、内部障害となっています。肢体不自由は徐々に減少していますが、それ以外は横ばいあるいは少しずつ増加しています。年齢ごとに見ると、「18歳未満」は微減、「18歳から65歳未満」は横ばいです。65歳以上の人数は令和2年度以降減少しているものの、手帳所持者の約70パーセントを占めています。

表3 身体障害者手帳 障害種別推移

各年度3月末時点(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
しかくしょうがい 視覚障害	6,349	6,397	6,438	6,443	6,483	6,543
ちょうかく・へいこうきのうしょうがい 聴覚・平衡機能障害	8,706	8,842	8,919	9,032	9,131	9,190
おんせい げんご 音声・言語・ そしゃく機能障害	995	1,021	1,031	1,054	1,056	1,053
したいふじゆう 肢体不自由	49,700	48,893	48,233	47,193	46,064	44,742
ないぶしょうがい 内部障害	33,611	34,362	35,111	35,733	36,095	36,341
けい 計	99,361	99,515	99,732	99,455	98,829	97,869

表4 身体障害者手帳 年齢別推移

各年度3月末時点(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
さいみまん 18歳未満	2,377	2,360	2,353	2,305	2,262	2,218
さい さいみまん 18歳～65歳未満	27,638	27,542	27,555	27,656	27,701	27,689
さいいじょう 65歳以上	69,346	69,613	69,824	69,494	68,866	67,962
けい 計	99,361	99,515	99,732	99,455	98,829	97,869
ぜんたい 全体における さいいじょう わりあい 65歳以上の割合	ばーせんと 69.8 %	ばーせんと 70.0 %	ばーせんと 70.0 %	ばーせんと 69.9 %	ばーせんと 69.7 %	ばーせんと 69.4 %

(3) 知的障害

愛の手帳（療育手帳）の所持者数は、5年間で25パーセント以上、7千人近く増えていま
す。中でも、B2の手帳を所持している人の増加数が、4千6百人以上となっており、全体の
増加数の約68パーセントと多くを占めています。

全体の所持者数における各年齢の所持者数の割合は、この6年間を通して、ほぼ横ばいとなっ
ています。

表5 愛の手帳 障害程度別推移度

各年度3月末時点(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
えー A1	5,209	5,340	5,498	5,609	5,773	5,864
えー A2	5,140	5,222	5,300	5,395	5,490	5,614
びー B1	6,296	6,556	6,724	6,915	7,162	7,342
びー B2	12,764	13,704	14,759	15,634	16,434	17,463
けい 計	29,409	30,822	32,281	33,553	34,859	36,283

表6 愛の手帳所持者数 年齢別推移

各年度3月末時点(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
さいみまん 18歳未満	11,237 ばーせんと 38.2 %	11,809 ばーせんと 38.3 %	12,348 ばーせんと 38.3 %	12,739 ばーせんと 38.0 %	13,210 ばーせんと 37.9 %	13,805 ばーせんと 38.0 %
さい さいみまん 18歳～65歳未満	17,261 ばーせんと 58.7 %	18,033 ばーせんと 58.5 %	18,915 ばーせんと 58.6 %	19,778 ばーせんと 58.9 %	20,587 ばーせんと 59.1 %	21,366 ばーせんと 58.9 %
さいいじやう 65歳以上	911 ばーせんと 3.1 %	980 ばーせんと 3.2 %	1,018 ばーせんと 3.2 %	1,036 ばーせんと 3.1 %	1,062 ばーせんと 3.0 %	1,112 ばーせんと 3.1 %
けい 計	29,409	30,822	32,281	33,553	34,859	36,283

(4) 精神障害

精神障害者保健福祉手帳の所持者数は、5年間で1万人以上増えていて、その増加率は約39パーセントです。特に増加しているのは2級で、全体の増加数の約62パーセントとなっています。

年齢ごとに見ると、手帳所持者数は全ての年齢層で増えていますが、増加率としては、特に20歳未満は2倍近くに増えています。

なお、精神障害者保健福祉手帳は、長期にわたり日常生活または社会生活への制約がある人を対象とするものです。一方で、医療の観点で捉えた場合、自立支援医療（精神通院医療）の受給者数は、令和元年度で約6万3千人となっています。通院を継続しながら生活を保っている人がいることを踏まえつつ、手帳所持者数だけでは全体像を捉えきれないことを認識しておく必要があります。

表7 精神障害者保健福祉手帳 等級別推移 各年度3月末時点(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
きゆう 1級	3,457	3,673	3,809	4,033	4,278	4,424
きゆう 2級	19,313	20,731	22,264	23,177	25,113	26,963
きゆう 3級	11,808	12,497	13,159	13,644	14,376	15,588
けい 計	34,578	36,901	39,232	40,854	43,767	46,975

表8 精神障害者保健福祉手帳 年齢別推移 各年度3月末時点(人)

	ねんど 29年度	ねんど 30年度	ねんど 31年度	れいわ ねんど 令和2年度	れいわ ねんど 令和3年度	れいわ ねんど 令和4年度
さいみまん 20歳未満	1,021	1,150	1,341	1,511	1,705	1,998
	3.0 %	3.1 %	3.4 %	3.7 %	3.9 %	4.3 %
さい さいみまん 20歳～65歳未満	28,523	30,428	32,246	33,494	35,908	38,505
	82.5 %	82.5 %	82.2 %	82 %	82 %	82 %
さいいじやう 65歳以上	5,034	5,323	5,645	5,849	6,154	6,472
	14.6 %	14.4 %	14.4 %	14.3 %	14.1 %	13.8 %
けい 計	34,578	36,901	39,232	40,854	43,767	46,975